遠隔管理 ソフトウェア

ユーザーマニュアル

目　次

第 1 章 概要

1.1 ユーザーマニュアル

本ユーザーマニュアルはデジタルビデオレコーダー(ネットワークエンコダーサーバー及びネットワークカメラ含み)の遠隔ソフトウェアであるRemote Administration System Plus(以下、RASplus)の使用方法を記述しています。

1.2 RASplusの特徴

RASplusは複数箇所の遠隔地システムを遠隔管理、監視及び検索するための統合ソフトウェアで、次のような特徴があります。

- 遠隔システムのシステム状態を周期的に確認できます。
- 遠隔システムにイベントが発生すると自動的にRASplusに通知されます。
- 遠隔システムのカメラ入力画像を監視できます。
- 監視画像をRASplusシステムに録画できます。
- 遠隔システムに録画されたカメラ画像を検索できます。
- 遠隔システムのプログラムをアップグレードできます。
- 遠隔システムの設定を変更できます。
- 遠隔システムのログを閲覧できます。
- 複数箇所の遠隔地のをマップに構成して効率的に監視できます。
- 最高64ヶ所(遠隔検索の場合、最大16ヶ所)の遠隔支店への同時アクセスが可能です。

参考: この製品はOpenSSLツールキットを利用するためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含む。

参考: 本製品には 一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。そのソフトウェアのソースコードをご希望の方には提供できます。詳しい内容はソフトウェアCDに(OpenSourceGuide\OpenSourceGuide.pdf)または取扱説明書と一緒に提供されるオープンソースガイドを確認してください。

1.3 製品情報

製品構成

- ユーザーマニュアル
- RASplusソフトウェアインストールCD

システム要求事項

- OS：Microsoft® Windows® XP 32-bit (Service Pack 3)、Microsoft® Windows® Vista 32-bit (Service Pack 1)、Microsoft® Windows® 7 (Home Premium、Professional、Ultimate)、Microsoft® Windows® 8 (Pro、Enterprise)
- CPU：Intel Pentium IV (Celeron) 2.4GHz以上
- RAM：512MB以上
- VGA：AGP、Video RAM 8MB以上 (1024x768、24bpp以上)

第 2 章 インストール

注意: 旧バージョンのRASplusプログラムがすでにインストールされている場合は、まず旧バージョンのRASplusプログラムを削除してください。

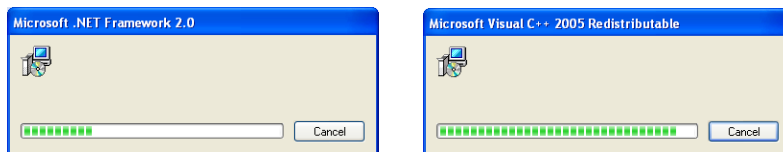
参考: ウィンドウズのスタートメニューのコントロールパネルに移動してから、“電源管理”オプションの“モニター節電機能”と“ハードディスク節電機能”を“使用しない”に設定してください。

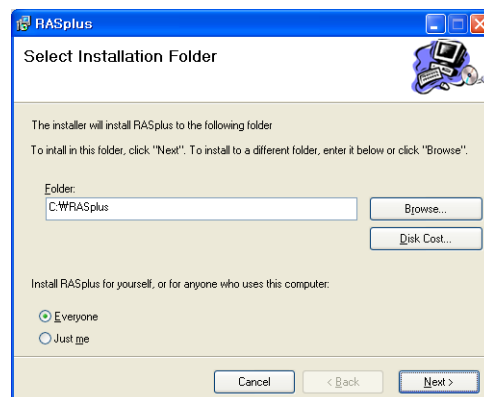
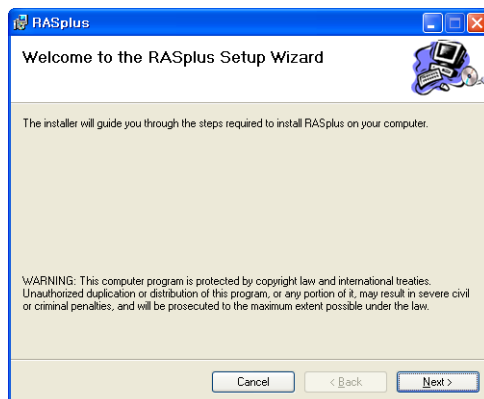
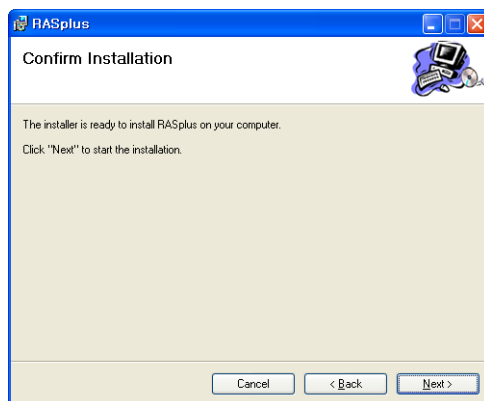
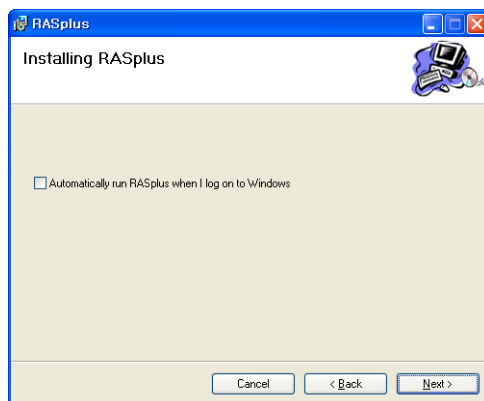
1. インストールCDを準備します。

2. “setup.exe”を実行します。

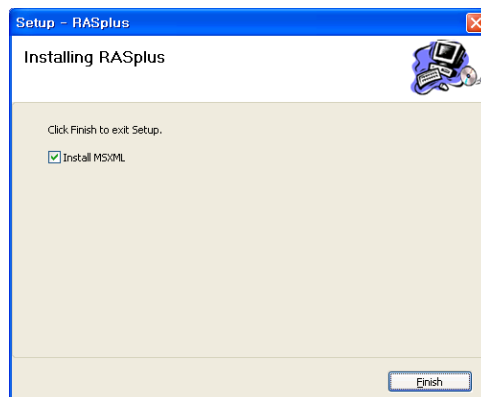
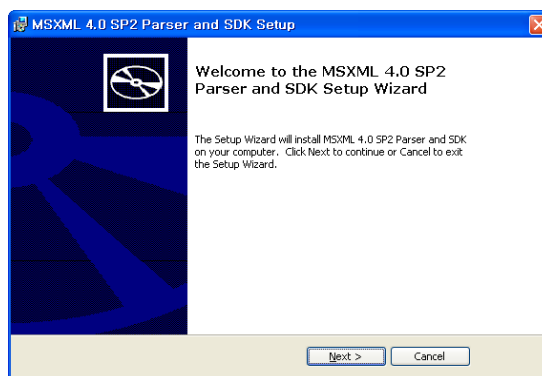
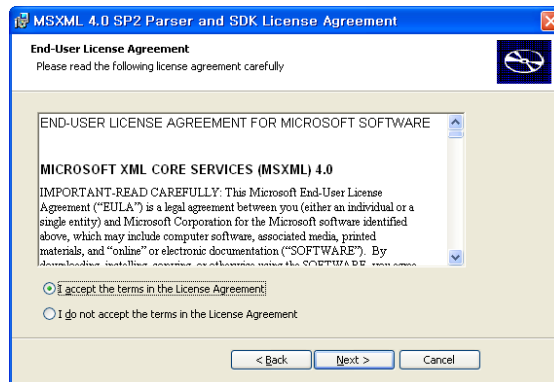
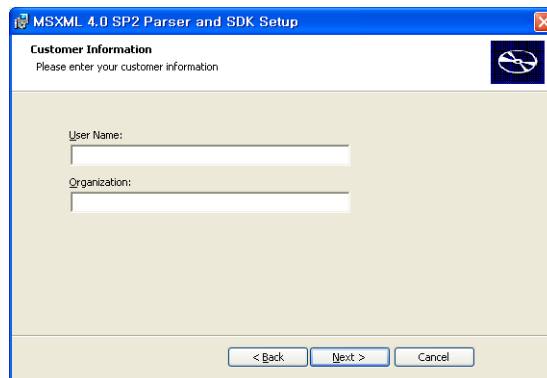
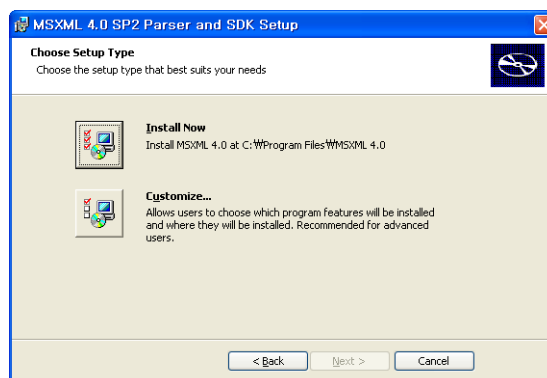
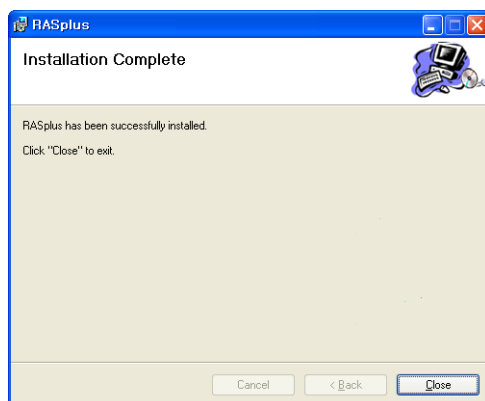
参考: 設置ファイル実行時、管理者IDで実行してください。他のユーザーのIDでPCにログインした場合、設置ファイル実行すると管理者のIPおよびパスワードの入力が必要で間違って入力した場合はプログラムが設定されません。

参考: Microsoft Windows Vistaまたはその上のバージョンで“ユーザーアカウント制御”窓が現れることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックして設定窓の指示によってRASplusプログラムを設置します。

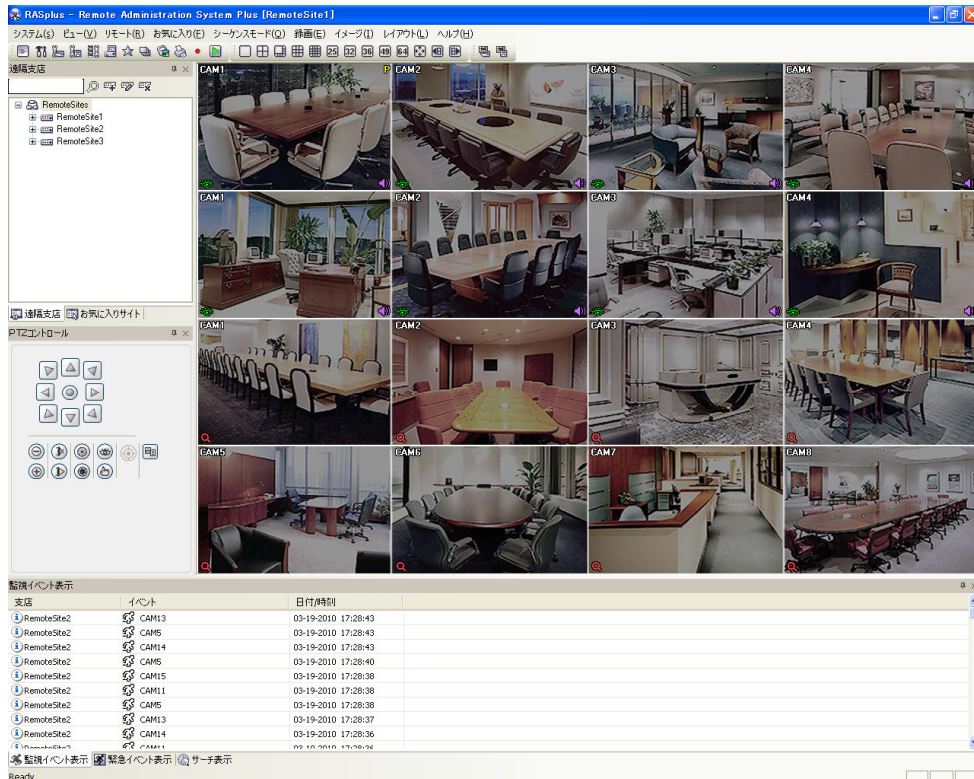
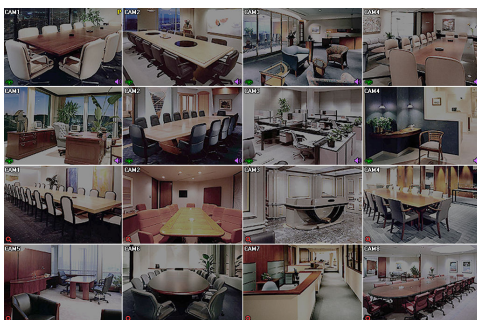
3. “.NET Framework”と“.Visual C++ Runtime Libraries”は自動的に設置されます。

参考: “.NET Framework”と“Visual C++ Runtime Libraries”はRASplusの実行のためには必ずインストールしてください。ユーザのPCにインストールされている場合は、本過程は省略します。

4. RASplusをインストールする位置とユーザーを指定してから“Next”ボタンを選択してください。

5. 次のインストール画面が表示されたら、“Next”ボタンをクリックします。

6. 下の画面が表示されたら、“Next”ボタンをクリックします。

7. ウィンドウズ起動時RASplusの自動実行設定をしてから“Next” ボタンを選択してください。

8. 言語オプションを選択します。"Select language when starting RASplus"を選択すると、RASplusプログラムが稼働するたびに使用する言語を選択します。"Always start RASplus using the language below"を選択してリストから使用する言語を選択すると、常に選択した言語のRASplusプログラムが稼働します。

参考: 選択した言語を正しく表示するためには、PCが該当言語のOSをサポートしていなければなりません。

9. RASplusのインストールが完了して下の画面が表示されたら、"Install MSXML"インストールを選択して"Finish"ボタンをクリックします。MSXMLはRASplusを駆動するために必ずインストールしてください。

10. 次のインストール画面が表示されたら、"Next"ボタンをクリックします。

11. 下の画面が表示されたら、同意するを選択してから“Next”ボタンをクリックします。

12. 下の画面が表示されたら、“User Name”と“Organization”欄にユーザー情報を入力して、“Next”ボタンをクリックします。

13. 次のインストール画面が表示されたら、“Install Now”を選択してインストールをスタートします。

14. 下の画面が表示されたら、“Close”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

第 3 章 構成

RASplusソフトウェアをインストールした後、デスクトップのRASplusショートカット アイコンをダブルクリックしてプログラムを実行します。RASplusの画面はスクリーン、ドッキング可能な12個のパネル、メニューそしてツールバーで構成されています。

参考: RASplus初期画面はよく使われるパネルで構成され、一部のパネルが見えない恐れがあります。見えないパネルは 画面上端に位した "ビュー"メニューで 該当のパネルを選択して現わすことができます。

3.1 スクリーン

スクリーンは、RASplusモードによって遠隔支店のカメラのリアルタイム画像や録画画像を表示します。ユーザーの便宜によって画面レイアウトを変更することができ、1、4、8、9、16、25、32、36、49、64分割とフルスクリーンがサポートされます。

参考: マイクロソフトウィンドウズ・ヴィスタ(Microsoft Windows Vistaまたはその上のバージョンのOS)運営体制では映像転送速度の低下によりウェブガードのスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、御使用のPCのオートーチューニング機能の解除をお勧めします。

管理者権限でコマンドプロンプト実行(“スタート”メニュー→“すべてのプログラム”→“コマンドプロンプト”→マウスの右ボタンを利用し、“管理者として実行”選択)。“netsh int tcp set global autotuninglevel=disable”を入力してから緑たーENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

オートーチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから“netsh int tcp set global autotuninglevel=normal”を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

3.2 パネル

ユーザーの便宜によってパネルを効果的に構成できるように、RASplusは様々なツールを提供しています。あまり使用しないパネルは隠す、パネルのサイズを調節するなどし、使用目的によって画面を自由に構成することができ、フローティングとドッキングの可能な12個のパネルをメイン画面の任意の位置に移動させることができます。

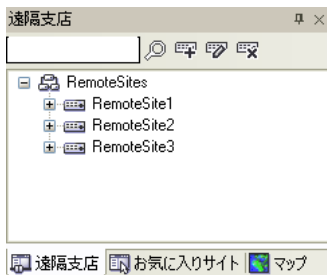
パネル右側上段にある (自動隠し)アイコンをクリックして、自動隠し機能の使用の有無を選択できます。自動隠し機能を選択すると、パネルが消えて代わりに画面の横や上、下段に該当パネルのタブが表示されます。該当タブにマウスを当てるとパネルが表示され、 (自動隠し)アイコンをもう一度クリックすると従来の位置にパネルが固定されます。 (隠し)アイコンをクリックすると該当パネルが消え、消えたパネルはRASplusの表示メニューの該当パネル項目を選択すると再び画面に表示されます。

パネルの端をマウスでスクロールして、マウスカーソルが↔または↕に変わったらマウスの左ボタンをクリックしたままでドラッグして任意のサイズに調節することができます。

パネルを特定位置に移動させるには、自動隠し機能が選択されていない状態でパネル上段タイトルバーにマウスを当てます。カーソルが✥に変わったら、マウスの左ボタンをクリックしたままでメイン画面の任意の位置にドラッグ&ドロップします。

移動したパネルの上段タイトルバーを、マウスを利用してクリックしたままで動かすとメイン画面に矢印アイコンが表示され、該当矢印を利用して任意の方向や位置に固定することができます。

- パネルをメイン画面の上下左右の分離された各矢印アイコン位置にドラッグ&ドロップすると、ブルーの透明なボックスが表示した位置に固定されます。
- パネルをメイン画面の特定パネルまたはスクリーン中央にある組合せ矢印アイコン(下の図を参照)位置にドラッグ&ドロップすると、該当パネルはスクリーン内のブルーの透明ボックスが表示した位置に固定されます。組合せ矢印の中央の アイコンにパネルを当てると従来のパネルと結合され、パネルの占めるスペースが減って画面をより効果的に使用することができます。

遠隔支店パネル

遠隔支店パネルは、基本設定で登録した遠隔支店リストと各支店のカメラ情報を表示します。

- (検索): パネル上段の検索テキストボックスに遠隔支店名を入力されてからアイコンを選択して遠隔支店リストから簡単に調べることができます。
- (支店登録): アイコンを選択して遠隔支店を登録することができます。
- (支店削除): 遠隔支店リストから支店を選択してからアイコンを選択して遠隔支店を削除することができます。
- (支店変更): 支店を選択してからアイコンを選択して遠隔支店情報を変更することができます。

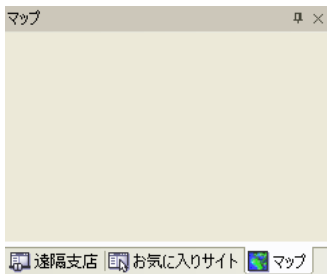
遠隔支店リストで任意の支店またはカメラを選択してから、マウスを利用してスクリーンの任意の位置にドラッグ&ドロップすると、該当支店と自動的にアクセスして該当画像が表示されます。また、状態表示パネルにドラッグ&ドロップすると、該当支店の状態情報が表示されます。

遠隔支店のリストからご希望の支店を選択し、マウスの右クリックするとポップアップメニューが表れます。

- 状態表示接続: 状態表示パネルに該当支店の状態情報が表示されます。状態表示パネルについての詳しい説明は、"4.5 遠隔支店状態表示"項目を参照してください。
- 遠隔設定: 該当遠隔地システムに対する遠隔設定を行います。遠隔設定についての詳しい説明は、"3.3 メニュー – システムメニュー、基本設定"項目を参照してください。
- 遠隔システムログ、遠隔イベントログ: 該当遠隔地のシステムのシステムログとイベントログ情報が表示されます。遠隔ログについての詳しい説明は、"3.3 メニュー – リモートメニュー"項目を参照してください。
- リモートデスクトップ: VNC機能を用いて遠隔 支店に接続することができます。この接続をする為には遠隔地システムにVNC機能が設定されていなければならなく、RASplusで遠隔支店を登録する時VNC遠隔接続の為のポート番号及びパスワードが登録されている必要があります。VNC機能に関する詳しい内容はその遠隔地システムの取引説明書をご参考ください。遠隔地システムの仕様及びバージョンによってこの機能が支援されない場合があります。

お気に入りサイトパネル

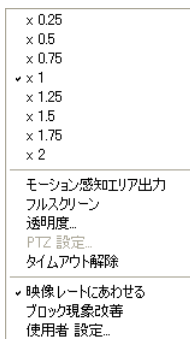
お気に入りサイトパネルは、基本設定で登録したお気に入りサイトのリストと各支店のカメラ情報を表示します。お気に入りサイトリストで任意の支店を選択してから、マウスを利用してスクリーンの任意の位置にドラッグ&ドロップすると、自動的に該当支店とアクセスして該当画像が表示されます。お気に入りサイトに複数の遠隔支店が登録されている場合、登録された全ての支店に同時に接続されます。

遠隔支店 お気に入りサイト マップ

マップパネル

マップパネルは、リンクで構成されたマップを利用して遠隔支店をより効率的に監視できるパネルです。マップパネルでマウスの右ボタンをクリックして監視しようとするマップイメージファイル(.rmp)をリストより選択すると選択したイメージがマップパネルに表示されて当該マップイメージへ登録された全ての支店に同時接続します。選択したマップにリンクされているマップがある場合、該当のマップイメージをクッリクしてリングされているマップに移動します。

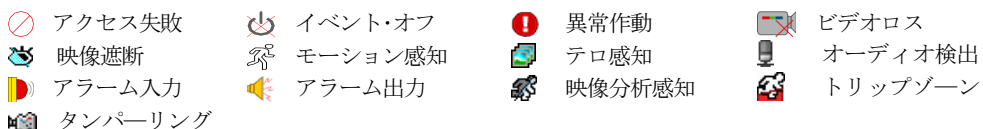
参考: マップの編集に関する事項は“付録 C. Map Editor”項目を参照してください。

マップパネルはアラーム入力、モーション感知、映像信号なしなどのイベントが発生した場合、またはユーザーが装置のアイコンをクリックした場合、Map Editorで設定した通りに該当スクリーンをポップアップします。ポップアップスクリーンを選択してからマウス左ボタンをクリックした状態で、スクリーンの任意の位置に移動させることができます。ポップアップスクリーンを選択してからマウス右ボタンをクリックすると、次 のような メニューが表示されます。

x 0.25
x 0.5
x 0.75
✓ x 1
x 1.25
x 1.5
x 1.75
x 2
モーション感知エリア出力
フルスクリーン
透明度...
PTZ 設定...
タイムアウト解除
✓ 映像レートにあわせる
ブロック現象改善
使用者 設定...

- x0.25 ~ x2: ポップアップスクリーンのサイズを調節します。
- モーション感知エリア出力: モーション感知エリアを表示します(ネットワークビデオサーバーでのみ活性化する機能)。
- フルスクリーン: 該当ポップアップスクリーンをフルスクリーンで表示します。
- 透明度...: ポップアップスクリーンの透明度を設定します。
- PTZ設定...: 選択したPTZカメラのPTZを調節します。
- タイムアウト解除: ポップアップタイムアウトを解除し、イベントが発生すると当該映像のポップアップ状態を維持します。
- 映像レートにあわせる: ポップアップスクリーンを映像レートにあわせて出力します。
- ブロック現象改善: 拡大映像のブロック現象が改善された映像を出力します。
- 使用者設定...: 現在の画面に表示されたポップアップスクリーンのモードを設定します。例えば4x4モードを選択すると、現在ポップアップされているスクリーンを16分割モードで表示します。

参考: ポップアップ機能設定についての詳しい内容は、“付録 C. Map Editor”項目を参照してください。

マップ上で任意の装置を選択してから、マウスを利用してスクリーンまたは状態表示パネルにドラッグ&ドロップすると、自動的に該当支店と接続されます。また、装置の上にマウスカーソルを当てると、該当装置の設定情報と状態が表示されます。装置がイベントを感知したり正しく作動しない場合は、次のような状態アイコンが表示され、順番に最高4つまで表示されます。

アクセス失敗	イベント･オフ	異常作動	ビデオロス
映像遮断	モーション感知	テロ感知	オーディオ検出
アラーム入力	アラーム出力	映像分析感知	トリップゾーン
タンパーリング			

参考: イベント状態表示の場合、遠隔地のシステムで設定したイベント感知設定によってイベント発生状態を表示します。また、“異常作動”表示の場合は、遠隔地のシステムで設定したシステムチェック設定によって状態を表示します。

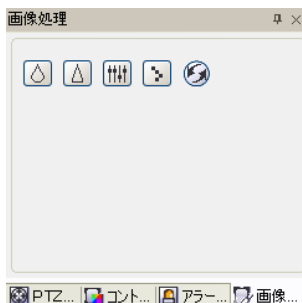
参考: 遠隔地システムの使用及びバージョンにより一部の状態アイコンが支援できない恐れがあります。

マップ上よりマウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューより"監視イベント表示"を選択するとマップへ現在接続している遠隔支店-より発生したイベントを表示し、"終了"を選択するとマップパネルへ接続されている支店との接続を解除します。

PTZコントロール/カラー調節/アラーム出力コントロールパネル

各パネルはRASplusウォッチモードで遠隔地カメラのPTZコントロール、監視映像のカラー調節及び、遠隔支店のアラームアウトの制御機能を行います。

参考: PTZコントロール、色相調節、アラーム出力コントロールについての詳しい説明は、"4.1 リアルタイム監視"項目を参照してください。

画像処理パネル

画像処理パネルでは、RASplusサーチモードで検索中の画像を様々な方法によって修正できます。

参考: 画像処理についての詳しい説明は、"4.2 再生と検索"項目を参照してください。

ウォッチイベント表示パネル

ウォッチイベント表示パネルは、RASplusウォッチモードで発生したイベントを表示するもので、各イベントアイコンの意味は次の通りです。

アラーム入力作動	アラーム入力解除	モーション感知
テロ感知	映像信号なし	映像遮断
テキスト入力	アラーム入力異常あり	録画機能異常あり
ディスクBad Sector	ディスクフル	ディスクフル
S.M.A.R.T.感知結果ディスク異常あり	S.M.A.R.T.感知結果ディスクが高温	
ディスク設定変更	緊急録画開始	緊急録画終了
ファン異常あり	ファン異常解除	システムスタート
システム動作	システム再起動	システム終了
映像分析感知	オーディオ検出	トリップゾーン
タンパ―リング		

参考: 遠隔支店システムの仕様及び、バージョンにより、一部イベントアイコンが支援できない場合があります。

緊急イベント表示パネル

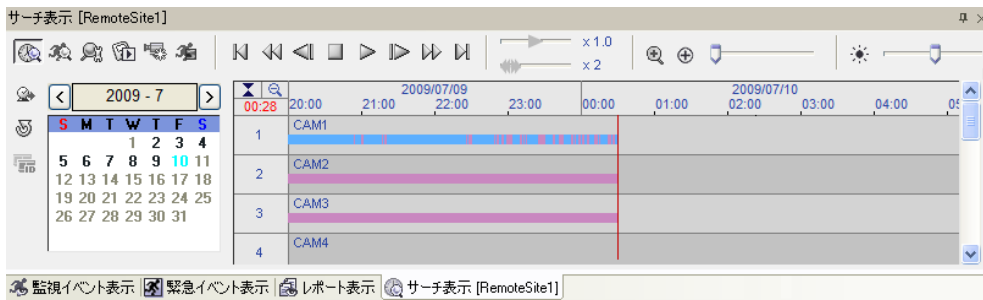
緊急イベント表示パネルは、遠隔支店よりコールバックされた緊急イベントを表示するもので、これはLAN使用時にのみ表示されます。受信した緊急イベントを選択してからマウスを利用して画面がドラッグアンドドロップして当該支店と自動的に接続するので監視及び検索ができますし、当該項目はリストの左側のボックスへチェック表示され、当該イベントに対する確認有無を区別できます。リストから支店あるいはイベントを選択してからマウスの右ボタンをクリックすると当該支店の緊急イベント支持事項がガイドとして表示されます。

参考: 緊急イベント表示機能の使用のためには前もって遠隔支店システムでイベント設定時、当該イベントが発生するとRASplusへ通知するように設定しておく必要があります。

レポート表示パネル

基本設定で設定した時間間隔で登録された遠隔支店を巡回し、アクセスの有無やアラーム･イン、録画の有無、録画状態、録画期間などの情報を表示します。レポート表示パネルの左上段にある (更新)ボタンを利用してレポート情報を再度更新したり、 (レポート出力)ボタンを利用したりして、レポート情報をRASplusシステムに接続したプリンターで印刷できます。

参考: 遠隔地システムの仕様によっては、一部のレポート項目がサポートされないこともあります。

サーチ表示パネル

サーチ表示パネルは、アクセスした遠隔支店の保存画像に対してタイムラプスサーチとイベントサーチを行います。

参考: RASplus検索機能についての詳しい説明は、“4.2 再生と検索”項目を参照してください。

状態表示パネル

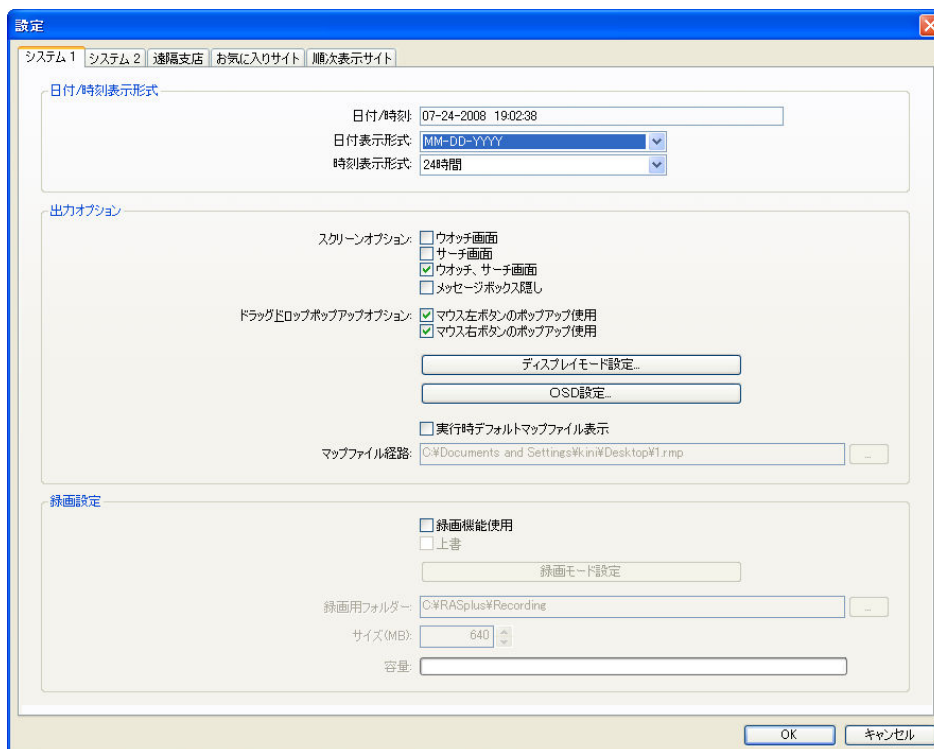
状態表示パネルは、遠隔地システムの状態表示や遠隔設定、遠隔システムログ、遠隔イベントログ表示等の機能を提供します。遠隔支店とマップパネルでカメラまたは支店を選択してからマウスを利用して状態表示パネルにドラッグ&ドロップすると、該当支店についての状態情報が表示されます。また、遠隔支店リストでマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューの“状態表示パネル接続”を選択して、該当支店とアクセスすることもできます。

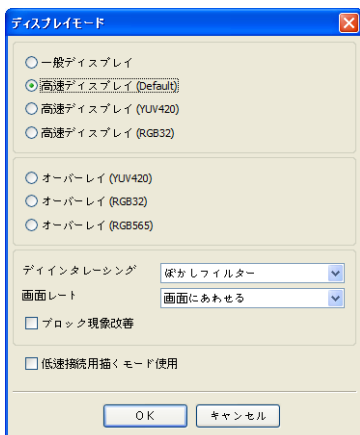
参考: 状態表示パネルについての詳しい説明は、“4.5 遠隔支店状態表示”項目を参照してください。

3.3 メニュー

システムメニュー

基本設定

RASplusの運営に必要な基本設定であり、システムと遠隔支店、お気に入りサイト、順次監視支店の設定で構成されています。

システム1の設定: RASplusシステムの日付/時刻形式と出力情報、緊急録画機能を設定します。

- 日付/時刻のフォーマット: 使用する日付/時刻のフォーマットを設定します。
- 出力オプション
  - スクリーンオプション: ウォッチ画面(スクリーンを監視専用に使用)、サーチ画面(スクリーンを検索専用に使用)またはウォッチ&サーチ画面(スクリーンを監視と検索に同時使用)を選択して、スクリーンを任意の用途で使用できます。RASplusの状態を表示するメッセージボックスの出力が必要ない場合は"メッセージボックス隠し"を選択してください。
  - ドラッグドロップポップアップオプション: "ウォッチ&サーチ画面"オプションを選択した場合、スクリーンモード選択ポップアップ画面を表示するのに使用するマウスボタンを設定します(マウス左ボタン使用、マウス右ボタン使用または両方使用)使用しない場合はウォッチ画面で接続します。
  - ディスプレイモード設定: スクリーンに描かれるディスプレイ方式を設定することができます。

- 一般ディスプレイ: Dib Draw Modeであり、ユーザーのPCのCPUの性能にもよりますが、映像出力速度が少しばかり遅くなります。
- 高速ディスプレイ(Default): Direct Draw Modeであり、一般的速度で映像を出力します。
- 高速ディスプレイ(YUV420/RGB32): Direct Draw Overlay Overlay Modeであり、映像を出力する速度がかなり速いです。
- オーバーレイ(YUV420/RGB32/RGB565): Direct Draw Overlay Modeであり、映像を出力する速度がかなり速いです。
- ディインタレーシング: ディインタレーシングフィルタを設定します。インタレーシングモードにてインコーディングしてある映像の場合、動きのある部分へ発生する横線やノイズを無くし、映像の出力品質の向上することができます。
- 画面レート: 映像の出力比率を設定することができます。"画面にあわせる"を選択すると 画面の大きさに合わせて映像を出力します。"映像レートにあわせる"を選択すると映像の原本のレートで画面へ映像を出力します。
- ブロック現象改善: 拡大映像から発生するブロック現象を改善することによって画面へ出力する映像の出力品質を向上することができます。
- 低速接続用描くモード使用: ADSLのような遅いネットワーク環境で監視モードで遠隔地システムに接続する時、初期映像がスクリーンに出力されるまで掛かる時間を減らすことができます。

参考: 使用するPCの仕様によっては、正しく出力されないこともあります。その場合は、ディスプレイモードのレベルを下げてご使用ください。

参考: デュアルモニタをご使用のお客様がRASplusスクリーンをサブモニタへ置いて高速ディスプレイを選択すると が映像の出力速度が遅くなる恐れがあります。

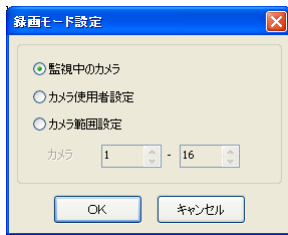
参考: オーバーレイディスプレイの場合、グラフィックカードの種類によりサポートしないこともあります。ATI CHIPSETを使用したビデオカードをお勧めます。

参考: デュアルモニタをご使用の場合、オーバーレイディスプレイはメインモニタ(Primary Monitor)だけに出力されます。

参考: 仕様が十分でないPCからのディインタレーシングの御利用は映像の出力速度の低下の恐れがあります。

参考: 仕様が十分でないPCからのブロック現象改善の御利用は映像の出力速度の低下の恐れがあります。

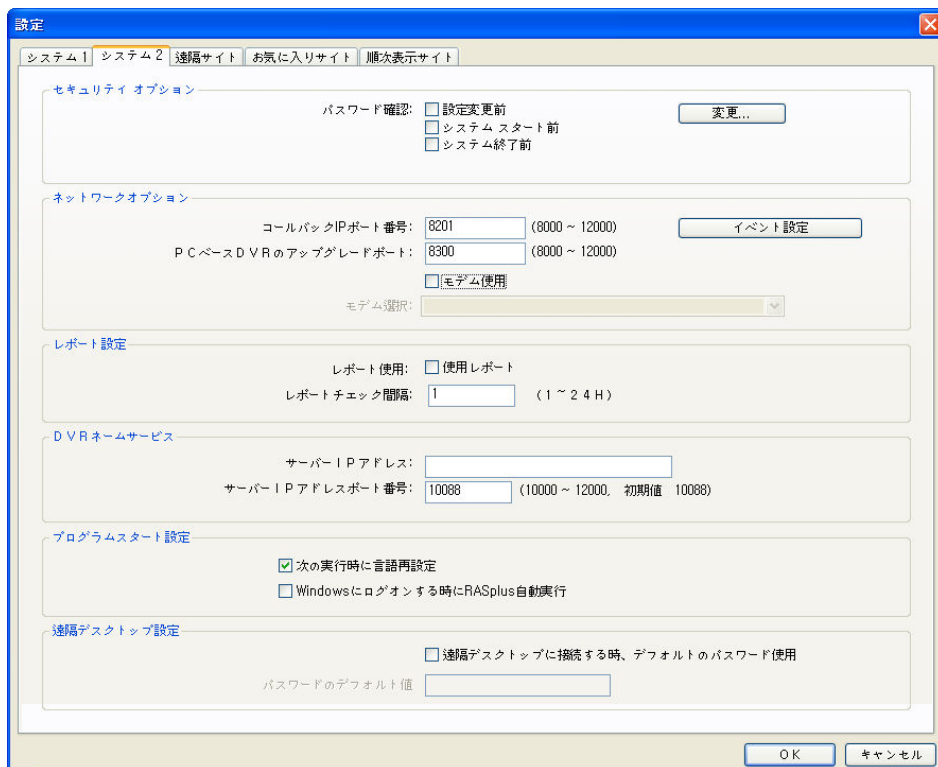
  - OSD設定: スクリーンに表示されるOSD項目を設定できます。
  - 起動の時マップファイルのローディング: RASplus を起動させるの時、指定されたマップファイルを自動的に行いたい場合、項目を選択した後、該当マップファイル(.rmp)の経路を指定します。
- 録画設定
  - 録画使用: 緊急録画機能の使用の有無を選択します。

– 上書: 録画データの上書の有無を選択します。“上書”をチェックすると、録画スペースがいっぱいになると古いデータから消去され新しいデータが保存されます。
– 録画モード設定: 緊急録画の場合、録画することになるカメラの選択方法を設定することができます。

- 監視中のカメラ: 監視画面上に表示するカメラの映像を録画します。
- カメラ使用者設定: 特定カメラを指定して録画します。
- カメラ範囲設定: 特定カメラの範囲を指定して録画します。

参考: 既にユーザーが録画するようにカメラを指定した場合でも現在監視画面上のカメラの映像に限って緊急録画が行われます。

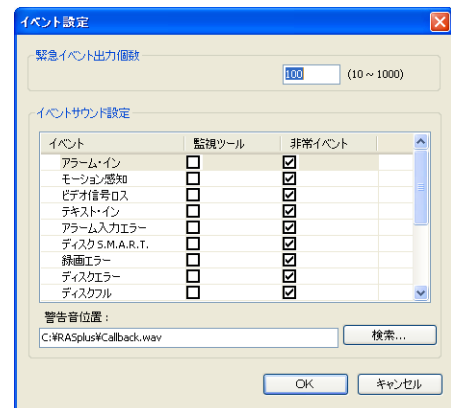
参考: カメラ使用者設定モードの場合、監視画面から指定しようとするカメラを選択後、マウスの右ボタンをクリックしてから表示されるポップアップメニューから “録画カメラ設定”を選択すると当該カメラのスクリーンに灰色のRアイコンが表示されます。

– 録画用フォルダー/サイズ(MB): 録画画像を保存するフォルダーの場所を指定してから、フォルダーのサイズ(640MB ~ 2048MB)を設定します。
– 容量: 現在選択された録画用フォルダーの余裕スペースを表示します。

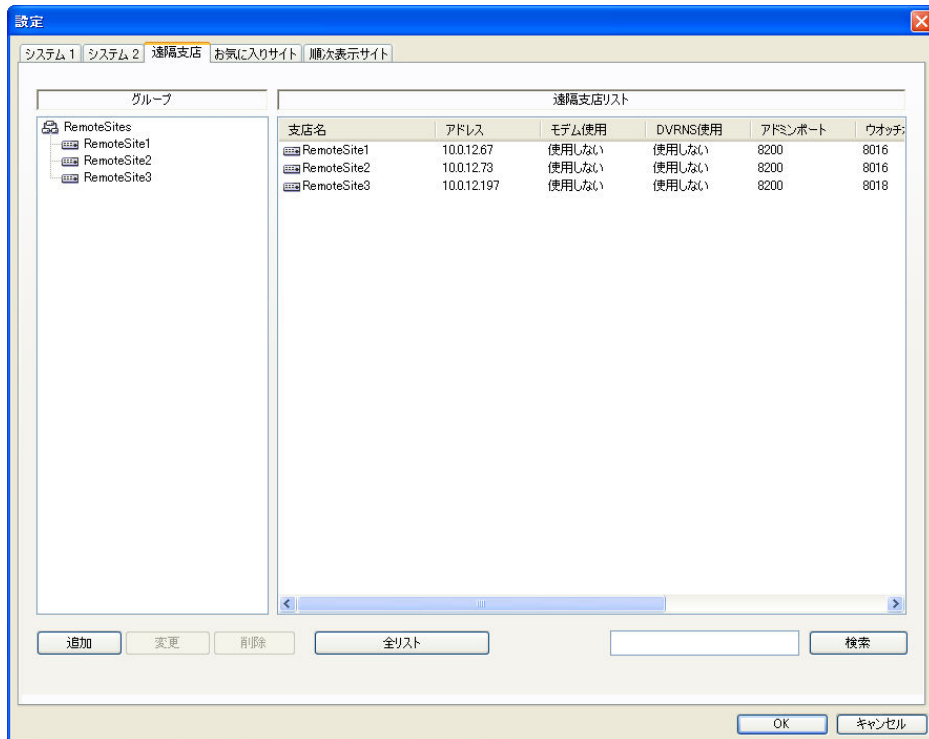
参考: 設定が完了した録画用フォルダーのサイズは変更できません。保存スペースを増やすには、新しいフォルダーを追加してください。

システム2の設定: RASplusシステムのモデム接続情報とセキュリティオプション、ネットワークオプション、レポート設定、DVRネームサービスを設定します。

- セキュリティオプション: 設定を変更したりシステムをスタート、終了しようとする場合、パスワードの確認を要求するように設定できます。"変更" ボタンをクリックしてセキュリティパスワードを設定、変更します。
- ネットワークオプション: コールバック時にRASplusアクセスに使用されるIPポート番号とPCベースDVRのアップグレードポートを設定します。遠隔アクセスのために内蔵または外付モデムを使用する場合、"モデム使用"を選択します。

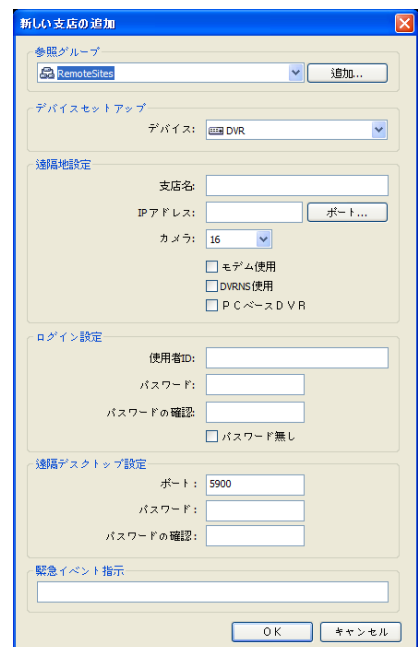
参考: コールバックIPポートの設定値は遠隔システムのLAN設定で設定したコールバックIPポート値と、アップグレードポート設定値は遠隔システムのアップグレードポート値と同じでなければなりません。

– イベント設定: "緊急イベント出力個数"より緊急イベント表示パネルで確認できるイベントの数を設定することができます。"イベントサウンド設定"より特定イベントが発生すると音を出力することができるように設定します。イベントリストから監視イベント及び緊急イベントを選択してから"警告音位置"へwavファイルを指定してイベントが発生すると出力するサウンドを決めることができます。イベント毎に違うサウンドを出力することもできます。

- レポート設定: 登録された遠隔支店に対するレポートを周期的に実行しようとする場合、レポート使用を選択してレポートチェック間隔(1時間 ~ 24時間)を設定します。
- DVRネームサービス: DVRNS(DVRネームサービス)サーバーのIPアドレスとポート番号を設定します。このときのIPアドレスとポート設定値は、アクセスしようとする遠隔システムのDVRNS設定で設定した値と同じでなければなりません。

参考: DVRNSサーバーはモデムで接続することはできません。詳しい内容は、"付録B. DVRネームサービス"項目を参照してください。

- プログラムスタート設定: RASplus実行時言語を再設定するかどうか設定したり、WindowsスタートRASplusの自動実行するかどうかの設定ができます。
- 遠隔デスクトップ設定: VNC機能を用いて遠隔支店に接続する際、全ての遠隔支店に対して同じパスワードを設定する事ができます。"遠隔デスクトップに接続する時、デフォルトのパスワード使用"項目を選択してからそのパスワードを入力します。この場合、遠隔支店を登録する際、"遠隔デスクトップ設定"項目で登録しあたパスワードは使いません。この設定は各遠隔支店のVNC遠隔接続のパスワードが全て同じである場合に使います。

遠隔支店の設定: 遠隔支店アクセスのためのアクセスリストを設定します。該当ボタンまたはマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューを利用して設定することができます。

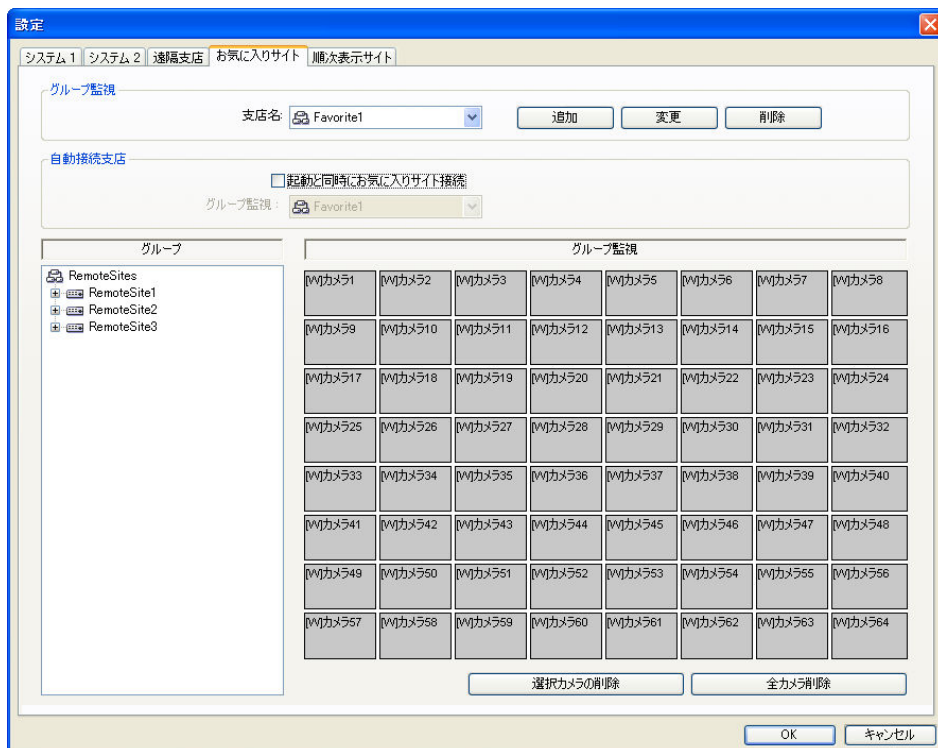
- 登録: 遠隔支店を登録します。

  – 遠隔支店グループ: 複数の遠隔支店を効率的に管理するために、グループを指定することができます。“追加”ボタンをクリックして、新規遠隔支店グループを登録します。
  – デバイスセットアップ: 遠隔地システムを選択します。遠隔地システムがネットワークカメラの場合“ネットワークカメラ”を選択します。
  – 遠隔地の設定: 登録する支店の遠隔地のシステムがPC ベースDVRの場合、“PCベースDVR”項目を選択します。登録する支店の支店名とIPアドレスを入力します。“ポート…”ボタンをクリックして各プログラム別にアクセスするIPポーを設定します。RASplusで設定した各プログラムの設定値は、遠隔装置のLAN設定で設定した値と同じでなければなりません。但し、遠隔地DVRシステムがポート設定機能をサポートしない場合、各IPポートは基本値であるAdmin: 8200、Watch: 8016、Search: 10019、Audio: 8116(PCベースDVRの場合、8115)に設定します。“カメラ”から登録する支店の接続カメラ数を選択します。例えば、16チャンネルのDVRを登録してからカメラの数を8と選択したら画面には1-8のカメラしか表示されません。

参考: モデムを使用する場合は、“モデム使用”をチェックしてIPアドレス欄に電話番号を入力します。DVRがDVRNS機能を使用する場合は“DVRNS(DVRネームサービス)使用”をチェックします。“IPアドレス”項目が“DVRアドレス”に変更されるとDVRNSサーバーに登録された遠隔支店システムの名を入力します。入力した名は遠隔支店システムのDVRNSの設定で設定した名と等しくなければなりません。

– ログイン設定: 該当遠隔支店システムで、設定した使用者ID及び、パスワードを入力します。使用者IDとパスワードを入力しておけば、パスワードを確認する画面なしに自動的にアクセスします。該当遠隔支店システムに暗号が設定されていない場合は“暗号無し”をチェックします。

参考: 支店名 は最高32桁まで入力することができます。

– 遠隔デスクトップ設定: VNC遠隔接続する為に遠隔システムで設定したポート番号及びパスワードを入力します。VNC遠隔接続に関する詳しい内容は“3.2パネル – 遠隔支店パネル”をご参考ください。全ての遠隔支店に同じパスワードを使用する場合、この設定ではパスワードの入力ができません。同じパスワードの使用に関する詳しい内容は“システム 2 – 遠隔デスクトップ設定”をご参考ください。
– 緊急イベント指示: 当該支店より緊急イベントが通報された場合の指示内容を入力します。緊急イベントが発生すると緊急イベントパネルより当該イベントあるいは支店を選択してからマウスの右ボタンをクリックすると当該支店の緊急イベント支持事項がガイドとして表示されます。

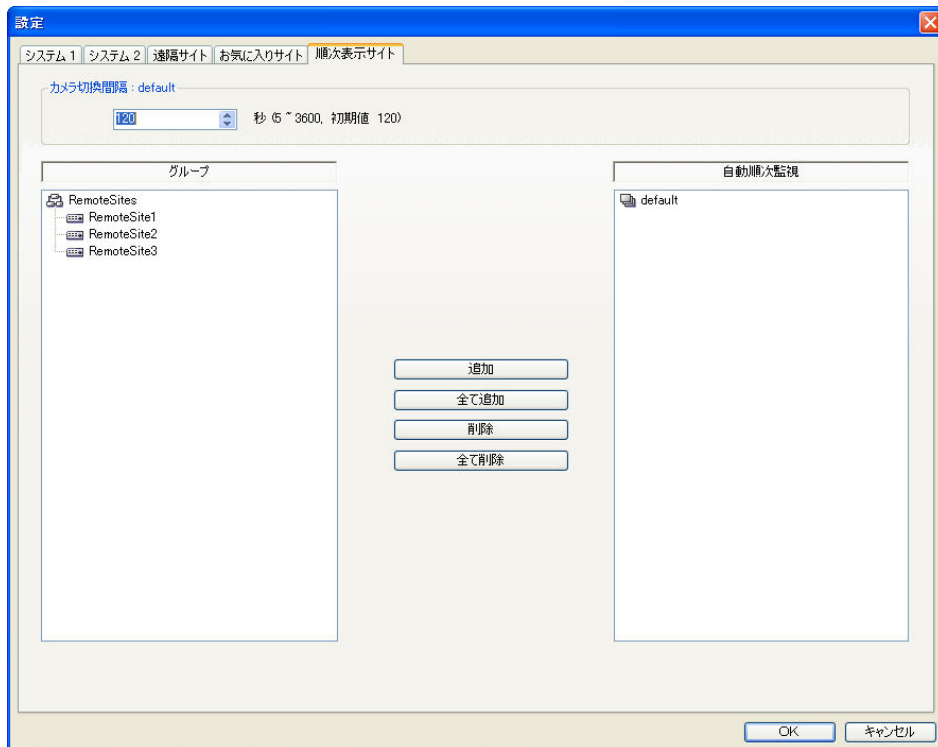
- 変更: 支店を選択してから“変更”ボタンをクリックするか、該当支店をマウスでダブルクリックして該当支店の情報を変更します。
- 削除: グループまたは支店を選択してから、“削除”ボタンをクリックして該当グループまたは支店を削除します。
- 全リスト: 現在登録された全ての支店とグループのリストを表示します。
- 検索: 検索しようとする支店の支店名を入力し、“検索”ボタンをクリックして該当支店を検索することができます。

お気に入りサイトの設定: 遠隔支店設定に登録された支店とカメラをユーザーの便宜によって64個のスクリーンに配置し、お気に入りサイトを設定することができます。お気に入りサイトを登録してから、任意の遠隔支店とカメラをお気に入りサイトマップにマウスでドラッグ&ドロップして設定します。

- グループ監視
  - 支店名: 登録されたお気に入りサイトのリストを表示します。
  - 追加: お気に入りグループを登録します。ボタンを選択すると"お気に入りサイト"メニューを表示します。登録するお気に入りサイトの名前とスクリーンレイアウトを設定します。そうするとお気に入りサイトへ接続時、設定されたスクリーンレイアウトにて映像を表示します。
  - 変更: 支店名リストで支店を選択してから、"変更"ボタンをクリックして該当支店名及びレイアウトを変更します。
  - 削除: 支店名リストで支店を選択してから、"削除"ボタンをクリックして該当支店を削除します。
- 自動接続支店: RASplusの起動時、指定されたお気に入りサイトへの自動接続するためには "起動と同時にお気に入り際と接続" リストを選択してから "グループ監視" から支店を選択してください。
- 選択カメラの削除: 現在選択されているカメラを全て削除します。
- 全カメラ削除: 現在お気に入りサイトに設定されているカメラを全て削除します。

参考: カメラの選択はマウス左ボタンを利用し、選択されたカメラは赤枠で表示されます。キーボードのCtrlキーを押してカメラを選択する場合はトグル選択をサポートし、Shiftキーを利用して複数のカメラを選択することができます。

参考: カメラ番号の左の[W](ウォッチ画面)と[S](サーチ画面)は、該当カメラのスクリーンモードを表します。スクリーンモードはお気に入りサイトの設定時に選択できます。遠隔支店リストで任意の支店を選択してから、システム設定でユーザーが指定したマウスボタンを利用してお気に入りサイトマップにドラッグ&ドロップすると、スクリーンモードを選択するポップアップメニューが表示され、出力オプションを"ウォッチ画面"または"サーチ画面"のどちらかに選択します。スクリーンモードを選択しない場合、登録されたお気に入りサイトのカメラは全て自動的に"ウォッチ画面"モードに指定されます。

参考: ウォッチモードまたはサーチモードで、現在のスクリーン配置を基本ツールバーの ☆ (お気に入り保存)ボタンを利用してお気に入りサイトとして直接設定することもできます。

参考: お気に入りサイトのウォッチ機能とサーチ機能は、LAN使用時にのみ機能します。

順次監視支店の設定: 順次監視は任意の支店を順に接続して表示する機能です。自動順次監視支店グループを登録して遠隔支店リストから希望の支店を順次監視グループに登録します。順次監視する時その順次監視グループに登録された遠隔支店の映像を設定された時間の間隔でスクリーンに表示されます。

- 順次監視時間間隔:選択した自動順次監視グループに登録された各支店に対する順次監視の時間間隔を表示し、設定された時間間隔を変更することもできます(5秒 ~ 1時間)。
- 自動順次監視: 登録された自動順次監視グループリストを表示します。グループを選択してマウス右クリックすると現れるポップアップメニューを利用してグループ(最大20個)を追加することができ、そのグループの順次監視設定を変更したりグループを削除することができます。
- 追加: 遠隔支店リストで選択した支店を、順次監視支店に登録します。ボタンをクリックすると現れるポップアップメニューで支店を登録するグループを選択します。
- 全て追加: 遠隔支店リストの全ての支店を順次監視支店に登録します。ボタンをクリックすると現れるポップアップメニューで全ての支店を登録する自動順次監視グループを選択します。
- 削除: 選択した順次監視支店を削除します。
- 全て削除: 順次監視支店を全て削除します。

参考: 順次監視機能はLAN使用時にのみ機能します。

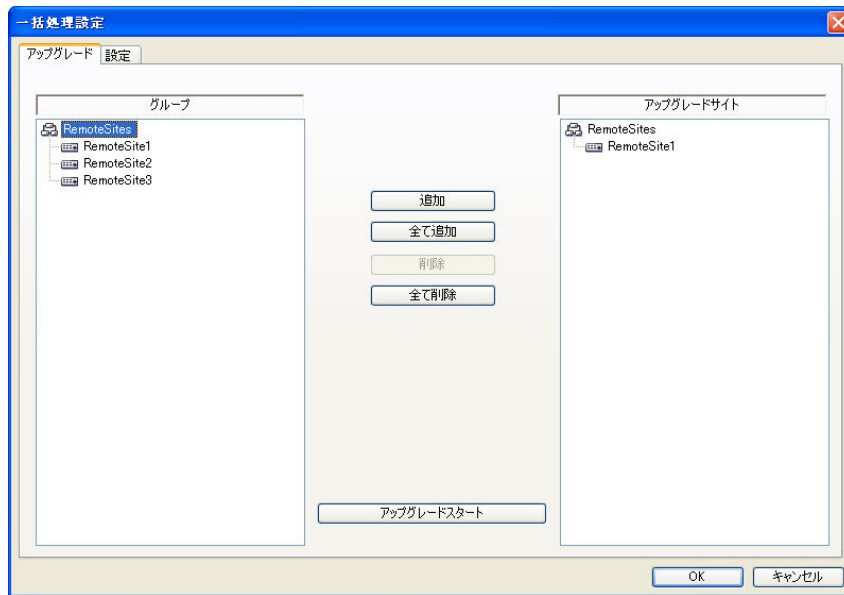
設定ファイル呼び出し

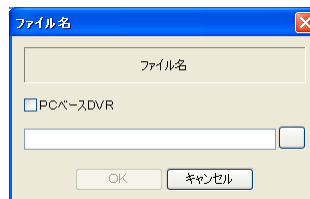
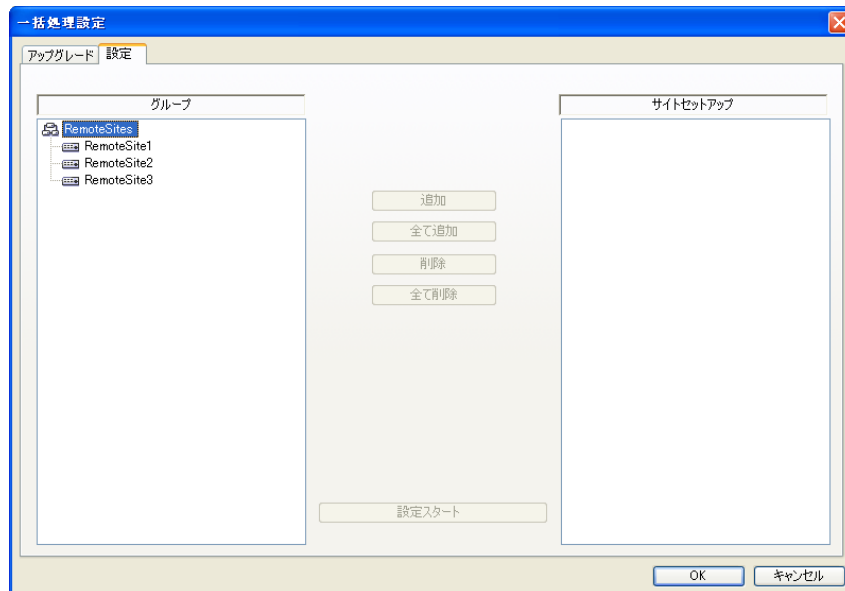
“.xml”ファイルで保存されたファイルを“システム – 設定”でメニューの設定値を呼び出し、現在のRASplusシステムに適用することができます。保存の際に特定遠隔支店を選択すると該当遠隔支店の設定のみ保存します。ツールバーの ボタンと同じ機能です。

設定ファイル保存

"システム – 設定"のメニューで現在の設定ファイルを".xml" ファイル状態で保存することができます。ツールバーの ボタンと同じ機能です。

バッチジョブ設定

遠隔地システムに対するアップグレードと遠隔設定に対するバッチジョブを設定します。

アップグレードバッチジョブ: 遠隔地システムに対するアップグレード一括処理を設定します。

- 追加: 遠隔支店グループで選択した支店をアップグレードサイトに登録します。
- 全て追加: 遠隔支店グループの支店を全てアップグレードサイトに登録します。
- 削除: 選択したアップグレードサイトを削除します。
- 全て削除: アップグレードサイトを全て削除します。
- アップグレードスタート: "アップグレードスタート"ボタンをクリックして該当アップグレードファイルを選択してから、各サイトに対するアップグレード一括処理を実行します。

参考: アップグレードする遠隔地システムがPCベースDVRの場合、"PCベースDVR"欄をチェックしてからアップグレードフォルダーを選択します。

遠隔設定バッチジョブ: 遠隔地システムの設定が保存されている設定ファイルを読み込んで該当遠隔地システムに適用します。

- 追加: 遠隔支店グループで選択した支店を設定支店に登録します。
- 全て追加: 遠隔支店グループの支店を全て設定支店に登録します。
- 削除: 選択した設定支店を削除します。
- 全て削除: 設定支店を削除します。
- 設定スタート: "設定スタート"ボタンをクリックして設定ファイルを選択すると設定支店に登録された遠隔地システムにその設定を適用します。

参考: 二つ以上の遠隔地のシステムに設定ファイルを適用する場合、ネットワークの設定は適用されなく遠隔地のシステムの仕様及びバージョンによって該当の機能が支援されない場合があります。

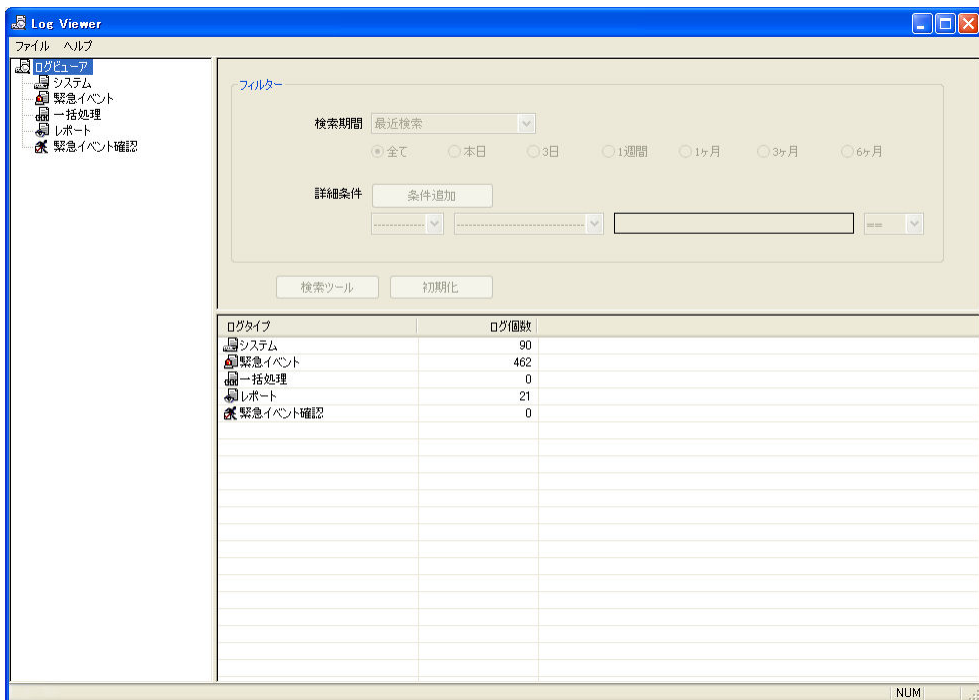
参考: 遠隔地システムがPCベースDVRの場合、この機能はサポートされません。

接続解除

現在アクセスしている支店に対する接続を解除します。ツールバーの ボタンと同じ機能を果します。

ログ表示

RASplusへ保存されたログを検索することが可能になり、検索したログをファイルとして保存、あるいは印刷、削除することができます。

参考: ウィンドウズの"スタート" メニュー → RASplus へ移動後、"Log Viewer"を選択してログビューアを実行することもできます。

ログ表示: RASplusのログの種類及び当該ログの下図を表示します。左側のリストでログを選択すると当該ログを全体リストが表示され、検索フィルターを利用してユーザーの指定条件を満足したログ情報を検索することができます。

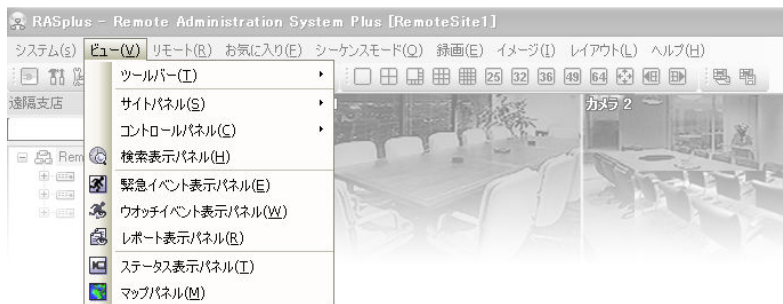
- フィルター: 選択したログの検索期間及び条件を設定します。
  - 検索期間: 現在基準で選択した期間以内に発生したログを検索しようとすると"最近検索"を、特定検索範囲を設定して設定時間内に発生したログを検索しようとすると"詳細検索"を選択します。
  - 詳細条件: フィルター対象(二番目のリスト)及び、フィルター(三番目のリスト、テキストボックスの場合、手動入力)を選択した後、比較条件(最後のリスト)を選択します。比較条件は"Equal"(設定した条件のログ検索、大小文字区別)または"Not Equal"(設定した条件のログを除いたログ検索)、"Like"(キーワードを入力して検索)、または"Not Like"(入力したキーワードを含まない検索)の中で一つを選択します。"条件追加" ボタンをクリックして条件を追加することができます。条件追加時、追加された条件をすべて満足するログを検索するためには"AND"を、少なくとも一つ以上の条件を満足するログを検索するためには"OR"を選択します。
- 検索ツール: 現在設定した検索期間及び条件を満足したログリストを表示します。
- 初期化: 検索フィルターを初期化します。

ファイル

- ログファイルオープン: ファイル(.db)として保存したログを検索することができます。
- ログ削除: 特定期間より古いログを削除することができます。
- 名前を付けて保存: 現在表示されたログ情報をテキスト(.txt)及びCSV(.csv)ファイルにて保存することができます。
- プリント: 現在表示されたログ情報を印刷します。
- 終了: ログビューア画面を閉じます。

閉じる

RASplusのアクセスを全て解除し、プログラムを終了します。

ビューメニュー

ツールバーとRASplusを構成する12個のパネルについての表示と隠し機能を遂行します。

リモートメニュー

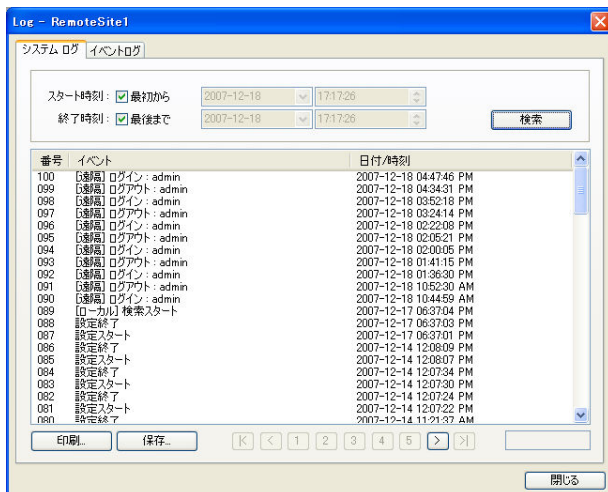
参考: リモートメニューは、遠隔支店パネルの各支店でマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューからもサポートできます。

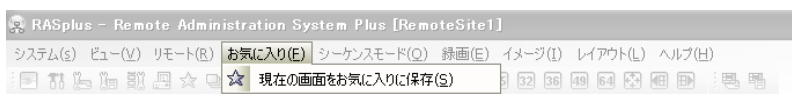
遠隔設定

RASplusに登録された遠隔地システムに対する遠隔設定を行います。遠隔支店パネルで任意の支店を選択してから遠隔設定メニューを実行すると、該当システムの設定画面が表示されます。

参考: 遠隔設定についての詳しい内容は、該当システムのユーザーマニュアルを参照してください。

遠隔システムログ/遠隔イベントログ

各項目のタブを選択すると、遠隔地のシステムのシステムログとイベントログ情報が表示されます。ユーザーが望む期間を指定してから"検索"ボタンをクリックすると、指定期間内のログが表示されます。1ページに表示できる検索結果は合計100個で、追加検索結果を見るにはログ画面の下の移動ボタンをクリックします。

- スタート時刻: 任意の検索開始日と時刻を設定します。"最初から"欄をチェックすると、最初のログから表示されます。
- 終了時刻: 任意の検索終了日と時刻を設定します。"最後まで"欄をチェックすると最後のログまで表示されます。
- 検索: 指定期間内のログを表示します。
- 印刷: 検索されたログ情報を印刷します。
- 保存: ログ情報をテキスト及びCSVファイルに保存します(UTF-8にエンコーディングします)。
- 移動: ログの最初のページ(|<)、前のページ(<)、次のページ(>)、最後のページ(>|)に移動します。ページ番号ボタンを利用して該当ページに移動します。
- 閉じる: ログ画面を閉じます。

お気に入りメニュー

参考: お気に入りメニューはツールからもサポートできます。

監視あるいは検索モードで現在のスクリーンの配置をお気に入り支店として設定します。

シーケンスモードメニュー

参考: シーケンスモードメニューはツールからもサポートできます。

自動シーケンスモード監視を開始あるいは終了します(監視スクリーンに限り)。"自動順次監視オン"をクリックすると希望の自動順次監視グループを選択することができます。

録画メニュー

参考: 録画メニューはツールからもサポートできます。

緊急録画を開始あるいは終了します。"再生"を選択するとレコードプレイやプログラムが実行され、録画映像を再生します。緊急録画機能についての詳細は"4.4 緊急録画"の項目をご参照ください。

イメージメニュー

参考: イメージメニューは映像処理パネルのコントロール及びツールからもサポートできます。

- 保存: 現在画面の画像を保存します。
- 印刷: 現在画面の画像を印刷します。

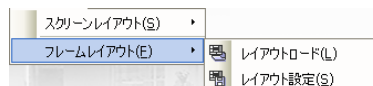
参考: 保存、印刷に関する詳しい内容は、“4.3 付加機能”項目を参照してください。

レイアウトメニュー

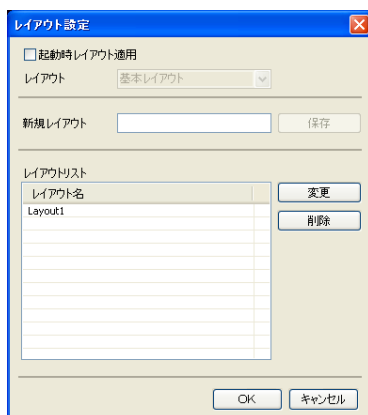
参考: レイアウトメニューはツールからもサポートできます。

スクリーンレイアウト

望みのスクリーンレイアウトを選択します。スクリーンレイアウトを変更する場合、スクリーンから選択したカメラが変更されたスクリーレイアウトの最初のセルに位置します。分割画面モードでは“前のレイアウト”あるいは“次のレイアウト”を選択したら、それぞれのボタンで前の、あるいは次のページのカメラグループに移動します。例えば、2x2画面から1 ~ 4番カメラを監視しながら“前のレイアウト”を選択すると61 ~ 64番カメラを、“次のレイアウト”を選択したら5 ~ 8番カメラを表示します。“フルスクリーン”を選択したらフルスクリーンモードに切り替わり、キーボードのEsc キーを選択するか、マウスの右ボタンを選択してポップアップメニューから“フルスクリーン終了(x)”を選択すると以前の状態に戻ります。

フレームレイアウト

– レイアウトロード: 好きなフレームレイアウトを選択してから“ロード”ボタンを選択してRASplusに適用します。

- 基本レイアウト: 監視及び、検索モードに最適化されたレイアウトを適用します。
- 管理レイアウト: 管理モードに最適化したレイアウトを適用します。
- 全体レイアウト: 全てのパネルが活性化されたレイアウトを適用します。
- 隠しレイアウト: 監視画面のみ表示し全てのパネルを隠します。
- ユーザー定義: ユーザーが指定したレイアウトを適用します。

– レイアウト設定: ユーザーの便宜のため、パネルを効果的に配置し、すきなフレームレイアウトを構成した後、レイアウト設定を利用してユーザーが指定したレイアウトを保存するか、保存されているレイアウトを変更あるいは削除することができます。

- 起動時レイアウト適用: RASplusの起動時指定されたレイアウトの自動適用のためにはチェックを入れてから、“レイアウト”リストより適用するレイアウトを選択してください。
- 保存: 現在、ユーザーがRASplusに適用したレイアウトを保存します。
- 変更: 保存されているレイアウトの名を変更します。
- 削除: 保存されているレイアウトを削除します。

参考: ユーザー定義は10個まで保存することができます。

ヘルプメニュー

RASplusのバージョン情報が表示されます。

3.4 ツールバー

ツールバーを利用して任意の機能を簡単に遂行します。

基本ツールバーを利用してメニューの機能を遂行します。各メニューボタンの機能は以下の通りです。

接続解除	基本設定	設定ファイル呼び出し	設定ファイル保存
バッチジョブ設定	ログ	お気に入りに保存	動順次監視
保存	印刷	緊急録画	再生

1画面　2x2　1+7　3x3　4x4　5x5　1+32　6x6　7x7　8x8　全画面　以前　以後

レイアウトツールバーを利用してお望みのスクリーンレイアウトを選択します。スクリーンレイアウトを変更する場合、スクリーンから選択したカメラが変更されたレイアウトの最初のセルに位置します。分割画面モードでは ボタン、あるいは のボタンを選択したら、それぞれのボタンで前の、あるいは次のページのカメラグループに移動します。

(レイアウトロード)ボタンを選択して好きなフレームレイアウトを選択してRASplusに適用します。 (レイアウト設定)ボタンを選択してユーザーが指定したフレームレイアウトを保存するか、保存されているフレームレイアウトを変更あるいは削除します。

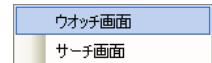
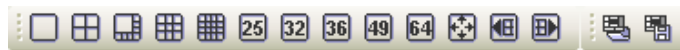
第 4 章 運営

4.1 リアルタイム監視

RASplusは、単一または複数の遠隔支店に対するリアルタイム遠隔監視機能を提供します。監視機能を使用するには、"システム – 基本設定"メニューのシステム設定部分で出力オプションが"ウォッチ画面"または"ウォッチ&サーチ画面"に設定されていなければなりません。

遠隔支店とお気に入りサイトパネルまたはマップパネルでアクセスしたい支店やカメラを選択してから、マウスを利用してスクリーンの任意の位置にドラッグ&ドロップすると自動的に該当支店と接続し、該当画像をリアルタイムで監視することができます。スクリーンの左下に監視モードを意味する アイコンが表われます。遠隔地とのアクセスを解除するには、遠隔支店及び、お気に入り支店パネル、マップパネル、またはスクリーンで該当支店、またはカメラを選択した後基本ツールバーの (接続解除)ボタンをクリックします。

参考: 遠隔システムの仕様によっては、遠隔地システムが録画中の場合にのみ画像転送できる場合もあります。

参考: 出力オプションが"ウォッチ&サーチ画面"に設定されている場合、システム設定でユーザーが指定したマウスボタンを利用してドラッグ&ドロップするとスクリーンモードを選択するポップアップメニューが表示され、ウォッチモードで接続したい場合は"ウォッチ画面"を選択します。

監視スクリーンレイアウト/フレームレイアウトの選択

レイアウトツールバーで任意のスクリーンレイアウトボタンを選択し、ウォッチ画面の分割方式を選択します。多重分割画面モードでは のボタン、あるいは のボタンを利用して、現在の分割画面より以前あるいは次のページに当るカメラグループに移動します。ウォッチ画面で特定画面をマウス左ボタンでダブルクリックすると1画面の画像に転換し、マウス左ボタンをもう一度ダブルクリックすると前の分割モードに戻ります。

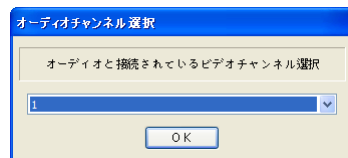
(レイアウトロード)ボタンを選択して好きなフレームレイアウトを選択してRASplusに適用します。 (レイアウト設定)ボタンを選択してユーザーが指定したフレームレイアウトを保存するか、保存されているフレームレイアウトを変更あるいは削除します。

オーディオ制御

RASplusはRASplusシステムと遠隔地のシステムの間の両方向オーディオ機能を提供いたします(両方向オーディオ機能をサポートする遠隔地のシステムに限る)。遠隔地のシステムとのオーディオ制御を活性化するためにはスクリーンから当該遠隔地のカメラを選択した後、マウスの右ボタンを使いポップアップメニュから"オーディオ制御"を選択します。

参考: 接続したオーディオ制御機能をサポートする場合、当該カメラスクリーンに アイコンが表われます。

ボタンを選択するとマイクを利用して遠隔地のシステムに音声を送ることが可能であり、 ボタンを選択するとスピーカから遠隔地のシステムのオーディオを再生することが可能であります。 ボタンと ボタンをすべて選択するとRASplusシステムと遠隔地のシステムとの両方向オーディオの送受信が可能になります。 ボタンを 選択するとオーディオ制御メニュが非活性化します。

遠隔地のシステム設定の時、受信しようとするオーディオチャンネルをRASplusから選択するように設定している場合、 ボタンを選択するとオーディオチャンネル選択メニュが表れます。受信して欲しいオーディオチャンネルと連動されたカメラチャンネルを選択して“OK”ボタンをクリックします。

順次監視

基本ツールバーで (自動順次監視)ボタンを選択し、希望の自動監視グループを選択して複数の遠隔支店を順次に接続して監視することができます。順次監視中にボタンを選択すると順次監視が解除され、現在の接続状態を維持します。順次監視機能を使用するためには、“システム – 基本設定”メニューの“順次監視”設定で順次支店登録と監視間隔を設定しなければなりません。設定に関する詳しい内容は、“3.3 メニュー”項目を参照してください。

参考: 順次監視中には、マウスボタンを利用してドラッグ&ドロップによる手動支店接続は行えません。

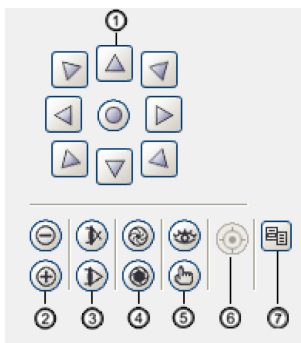
カラー調整

① 明度　② 対比　③ 彩度　④ 色相　⑤ 基本値

カラーコントロールのパネルを利用して、監視画像のカラーを調整することができます。該当アイコンを選択して、明暗や対比、彩度、色相を調整することができます。 アイコンをクリックすると、各画像の調整値の基本値(原本)に設定されます。本機能はウォッチモードでのみ活性化し、該当支店に対しカラー調整の権限があるユーザーだけがRASplusでカラー調整することができます。

参考: 適切なカラー調整が必要です。カラーの調整された録画画像を元の画像に戻すことはできません。

参考: 遠隔支店システムの仕様により、本機能が支援できない場合があります。該当システムの取扱説明書を参照してください。

PTZコントロール

① 移動ボタン　② ズームアウト/ズームイン
③ フォーカス近く/遠く　④ アイリス閉じ/開け
⑤ プリセット表示/設定　⑥ 自動フォーカス
⑦ 高機能メニュー

PTZコントロールパネルのコントロールを利用して、遠隔支店カメラのPTZをコントロールします。本機能はウォッチモードでのみ動作し、該当支店に対しPTZコントロールの権限があるユーザーだけがRASplusでPTZをコントロールすることができます。RASplusで遠隔支店のカメラのPTZ制御できる場合、当該カメラスクリーンに アイコンが表われます。

参考: 遠隔支店カメラがスピード、自動回転などの高級機能をサポートして同時に接続された遠隔地のシステムがその高級機能に対する遠隔制御をサポートする場合は高級メニュボタンが活性化されます。PTZ高級メニューを利用して当該カメラがサポートする高級機能を制御することができます。高級メニューの一部の機能はカメラの仕様によりサポートできないこともあります。

参考: (デバイスメニュー)アイコンをクリックすると高機能メニューの“デバイスメニュー”を選択するのと同じく動作します。

参考: カメラ移動や映像拡大または縮小によって映像のフォーカスが外れた場合 (自動フォーカス)ボタンをクリックするとフォーカスが自動で調整されます(ネットワークカメラの一部モデル限定)。

参考: マウスを利用したPTZ制御が可能であります。該当カメラのスクリーンでマウスの左ボタンを押したままでカメラを任意の方向に移動させ、マウスのホイールを動かして映像の大きさを調整することができます。

参考: 遠隔支店システムの仕様により、本機能が支援できない場合があります。該当システムの取扱説明書を参照してください。

アラーム出力コントロール

アラーム出力コントロールパネルを利用して、遠隔支店のアラーム出力及び警告音をコントロールすることができます。本機能はウォッチモードでのみ動作し、該当支店に対しアラーム出力コントロールの権限があるユーザーだけがRASplusでアラーム出力をコントロールすることができます。

参考: 遠隔支店システムの仕様により、本機能の支援ができない場合があります。該当システムの取扱説明書を参照してください。

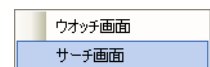
4.2 再生と検索

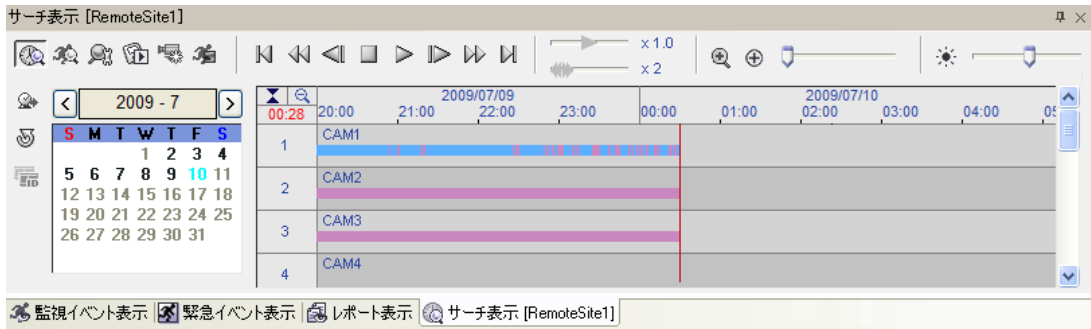
RASplusは遠隔地システムに保存された画像を再生、検索する機能を提供しています。タイムラプスとイベントサーチモードを提供し、再生画像の拡大/縮小、処理、保存、印刷など様々な付加機能を提供しています。保存画像の再生と検索機能を使用するには、“システム – 基本設定”メニューのシステム設定部分で、出力オプションが“サーチ画面”または“ウォッチ&サーチ画面”に設定されていなければなりません。

遠隔支店またはお気に入りサイトパネルでアクセスしたい支店を選択してから、マウスを利用してスクリーンの任意の位置にドラッグ&ドロップすれば自動的に該当支店と接続します。スクリーンの左下に検索モードを表示する アイコンが表われます。検索スクリーンでの遠隔支店接続はある程度の操作がない場合、自動的に解除されます。遠隔支店とのアクセスを手動で解除するには、基本ツールバーの (接続解除)ボタンをクリックします。

参考: お気に入りサイトを設定する際、“サーチ画面”出力オプションが選択されていなければ、お気に入りサイトに対する検索と再生はできません。詳しい内容は、“3.3 メニュー – システムメニュー”項目を参照してください。

参考: 出力オプションが“ウォッチ&サーチ画面”に設定されている場合、システム設定でユーザーが指定したマウスボタンを利用してドラッグ&ドロップすると、スクリーンモードを選択するポップアップメニューが表示され、サーチモードにアクセスしたい場合は“サーチ画面”を選択します。

ウオッチ画面
サーチ画面

RASplusスクリーンはウォッチ画面とサーチ画面を同時にサポートすることができます。例えば、9チャンネルのDVRシステムを接続する場合、監視したい支店をスクリーンの最初のフレームにドラッグ&ドロップしてから“ウォッチ画面”出力オプションを選択すると、最初のフレームから9番目のフレームまで該当遠隔地システムのリアルタイム画像が表示されます。もう一度検索したい支店をスクリーンの10番目のフレームにドラッグ&ドロップしてから“サーチ画面”を選択すると、該当遠隔地システムの保存画像が10番目のフレームから18番目のフレームに表示されます。

サーチ表示パネル

サーチ表示パネルは再生とサーチに関連した機能ボタンとタイムラプスとイベントサーチ画面で構成されています。

再生に関連したツールバーの各ボタンの機能は以下の通りです。

最初の画像に	高速逆再生	前の画像に	停止
再生	次の画像に	高速再生	最後の画像に

参考: 高速再生は、ネットワークの帯域幅や秒当りの録画画像数によって速度が変わることがあります。

x 1.0 再生スピード調節スライダーを利用して再生中の映像の再生スピードを調節できます。
x 2 高速再生/高速逆再生スピードを利用して高速再生/高速逆再生中の映像の再生スピードを調節することができます。

ボタンをクリックしてスクリーンで選択したイメージを実際の大きさで出力することができます。ボタンを再びクリックすると以前画面の割り合いで映像を出力します。拡大/縮小スライダーを利用して画像の特定部分を最高5倍にまで拡大することができます。拡大された画像は、マウスをドラッグして任意の場所に移動することができます。ボタンをクリックすると拡大をキャンセルし、映像を初期化します。明るさ調整スライダーを利用して、画像の明るさを調整することができます。ボタンをクリックすると明るさ調節をキャンセルし、映像を初期化します。

参考: 拡大/縮小と明るさ調整は、静止画像に対してのみサポートされます。

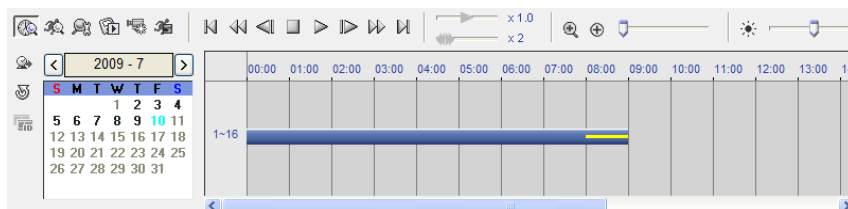
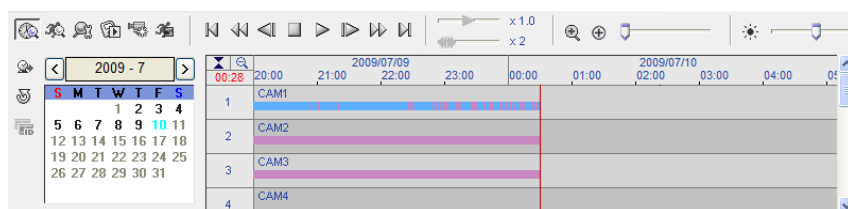
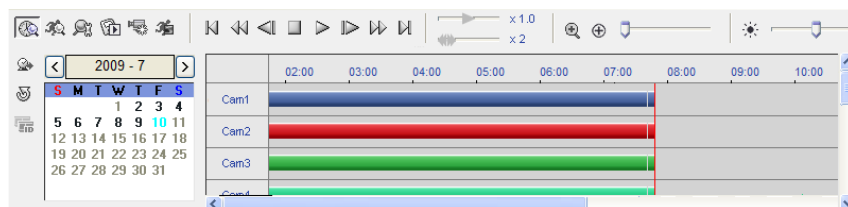
サーチモード

RASplusは、タイムラプスサーチとイベントサーチの二つのサーチモードをサポートします。タイムラプスサーチは録画データを時間順に検索、再生する機能であり、イベントサーチは特定条件に該当するイベントを探して検索する機能です。サーチモードによって、サーチ表示パネルの構成と検索方法は異なります。

参考: タイムラプス検索とイベント検索は同時に行うことができません。

タイムラプスサーチ

サーチ表示パネルの ボタンをクリックして、録画画像を時間順に検索、再生します。タイムラプスサーチモードでの検索は日付単位で行われ、カレンダーで検索する日付を選択することができます。録画画像のある日は、カレンダーに活性化して表示されます。タイムテーブルは、カレンダーで選択した日付の詳細録画情報を表示し、録画データがある部分だけ録画状態表示バーで表示されます。マウスをクリックして見たい時刻に直接移動することができます。初めてアクセスすると、自動的に最も最近録画された日付が(ハイライトされた表示)選択されます。日付情報をもう一度表示するには、 (更新)ボタンをクリックします。

参考: タイムラプス検索パネルのタイムテーブルは遠隔地の仕様により、変わることもあります。

全体カメラに対する録画情報を時間単位で表示し、現在検索中の時間は黄色で表示して区別することができます。ユーザーが遠隔地システム時間を過去に戻して録画する場合はビデオセグメントが生成されます。セグメントが分かれた日付を検索する場合は (セグメント選択)ボタンが活性化するので、ボタンをクリックすると以下のようなセグメント選択画面が表示されます。任意のセグメントを選択します。この時タイムテーブルでは活性化したセグメント区間はピンク色のバーとして、非活性化したセグメント区間は灰色のバーとして表示されます。

カメラ別の録画情報を分単位で表示し、赤い縦線は現在再生位置を表示します。タイムバーは一般録画–青色、プリイベント録画 – 黄色、イベント録画 – 紫色、緊急録画 – 赤色デバイス接続一時中断による非正常録画 – 樺色になって区別します。支援される録画種類は遠隔地のシステム仕様及びバージョンによって異なります。ユーザーが遠隔地システム時間を過去に戻して録画する場合はビデオセグメントが生成されますし、当該区間は黄色の分離線で区分されて表示します。

PC型DVRの場合、カメラ別録画情報を分単位で表示して録画状態表示バーは録画モード– 青色、プリイベント録画 – 黄色、モーション感知録画 – 緑色、ビデオ信号ビデオ信号ない録画 – 紫色、ビデオ信号発見録画 – 茶色、テロ感知録画 – ライム色、テキスト入力 – 灰色、センサー感知録画 – 赤色として区分できます。

特定時間帯の画像を見るには、(ショートカット)ボタンをクリックします。検索する日付と時刻を設定して、該当画像に直接移動することができます。

イベントサーチ

サーチ表示パネルの ボタンをクリックして、ユーザーが指定する特定の条件を満たすイベントを検索することができます。まず (検索)ボタンをクリックすると、検索条件を設定する"イベントサーチ"設定画面が表示されます。イベントサーチ設定画面で検索条件を設定してから"検索"ボタンをクリックすると、検索結果がイベントリストに表示されます。一度に表示できる検索結果は合計100個で、残りの検索結果を見るには (次を検索)ボタンをクリックします。リストでイベントをマウスクリックして選択すると該当イベントの画像がサーチ画面に表示され、再生ボタンを利用して検索することができます。

参考: 遠隔地システムの仕様によって、イベントサーチ設定画面の検索方法内容は変更することがあります。

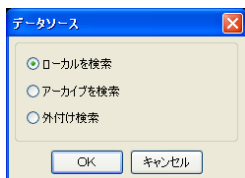
参考: "テキスト・イン"(イベント検索－テキスト・インタブ)検索は遠隔地システムの仕様及びバージョンによりサポートしないこともあります。テキスト・インの検索条件の設定に関する詳しい内容はそのシステムのユーザーマニュアルをご参考ください。

遠隔地のシステムがPCベースDVRの場合、検索方法を設定すると検索するイベント項目に対し、"出力時間"(イベント無視期間)を1秒~10分まで設定することができます。"出力時間"(イベント無視期間)を設定すると最初感知したイベントの映像だけ表示し、その以降の指定時間内のイベントに対する映像は表示しません。

参考: 検索スタート範囲の設定時に“最初から”欄をチェックすると最初の録画画像から表示され、設定時に検索終了範囲を“最後まで”にチェックすると、最後の録画画像まで表示します。

付加機能

データソースの指定

サーチ表示パネルの ボタンをクリックし、検索する録画画像の位置を選択します。

- ローカル検索: 遠隔地システムのメイン保存装置の録画画像を検索します。
- アーカイブ検索: 遠隔地システムのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
- 外付け検索: 遠隔地システムにつながっている他のシステムより使用された保存デバイスの録画映像を検索します。

参考: “外部保存装置検索”項目は遠隔支店システムの仕様及び、バージョンにより、支援できない場合があります。

再生スクリーンレイアウト/フレームレイアウトの選択

レイアウトツールバーで任意のスクリーンレイアウトボタンを選択し、再生画面の分割方式を選択します。多重分割画面モードでは のボタン、あるいは のボタンを利用して、現在の分割画面より以前あるいは次のページに当るカメラグループに移動します。再生とサーチ画面で特定画面をマウス左ボタンでダブルクリックすると1画面画像に転換し、マウス左ボタンをもう一度ダブルクリックすると前の分割モードに戻ります。

(レイアウトロード)ボタンを選択して好きなフレームレイアウトを選択してRASplusに適用します。 (レイアウト設定)ボタンを選択してユーザーが指定したフレームレイアウトを保存するか、保存されているフレームレイアウトを変更あるいは削除します。

画像処理

画像処理パネルのコントロールを利用して、再生と検索画像を修正できます。

- ソフト: 画像をソフトにします。
- クリア: 画像をクリアにします。
- 修正: 画像の画質を修正します。
- 補間: 拡大した画像のブロックアーティファクト現象をなくすために使用します。
- 復元: 元の画像に復元します。

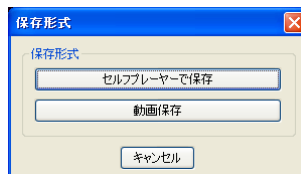
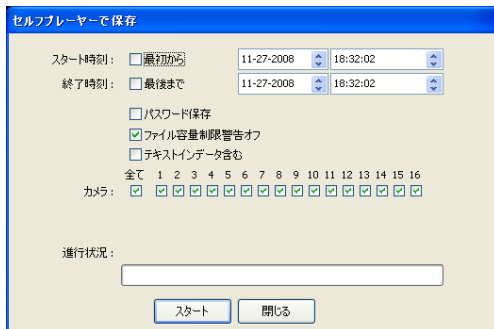
オーディオ再生

遠隔地システムから当該カメラの映像を保存しながらオーディオも一緒に録音している場合、RASplusでは当該カメラをフール画面で再生すると録音したオーディオも一緒に再生します。画面よりマウスの右ボタンをクリックして表示されるポップアップメニューより“オーディオオン”を選択/解除してオーディオ再生をオン/オフすることができます。

参考: ネットワークの状況あるいはご使用のパソコンの性能によりオーディオが正常に再生できない場合もあります。

参考: オーディオ再生機能は遠隔地システムの仕様により、サポートできない場合もあります。

保存

サーチ表示パネルの (動画保存)ボタンをクリックし、録画画像を保存することができます。

- **セルフプレーヤーで保存**: 特定区間の録画画像を実行ファイル(.exe)に保存します。保存条件を設定して、"スタート"ボタンをクリックしてから、ファイル名とファイルの形式(.exe)を指定します。"保存"ボタンをクリックして、セルフプレーヤーで保存をスタートします。

参考: 時間重畳現象によって同一の時間帯にひとつ以上の映像が存在する場合、セグメント選択窓が表示されセグメントの選択ができます。時間重畳現象の詳しい内容は該当システムの取扱説明書を参考して下さい。

参考: 保存中である録画映像の容量が2GBに達するとファイルを分割して保存し続けるか確認するメッセージを表示します。メッセージを表示しないためには"ファイル容量制限警告オフ"オプションを選択します。

参考: セルフプレーヤープログラムを包含しなく録画映像のみ保存する場合、"セルフプレーヤー除外"オプションを選択します。この場合、ファイルサイズ及び保存時間が減少しますが保存されたファイルを再生するためにはRASplusのプログラム設置CDに提供されるセルフプレーヤープログラムを実行する必要があります。遠隔地システムの仕様及びバージョンによって該当機能は支援されない場合があります。

検索パネルの (ブックマーク保存) ボタンを選択してセルフプレーヤーで保存を行うこともできます。タイムテーブル上で"スタート時刻"に指定する時間を選択してからボタンを選択し、"終了時刻"として指定する時間を選択してから再度ボタンを選択するとセルフプレーヤーで保存メニューが表示されます。保存条件を設定してから指定された範囲の映像を実行ファイル(.EXE)ファイルにて保存します。

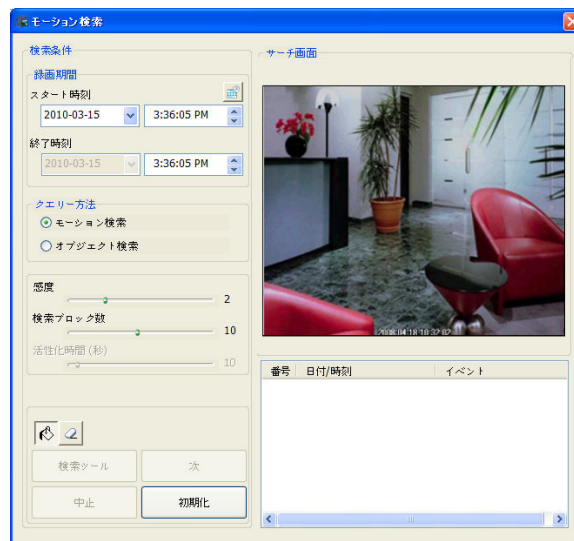
- **動画保存**: 録画画像をAVI(Audio Video Interleaved)形式のファイルに保存します。保存条件を設定して、"スタート"ボタンをクリックしてから、ファイル名を指定します。"保存"ボタンをクリックして動画保存をスタートします。

参考: "オーディオデータ含む" オプションはオーディオが一緒に保存された映像の場合、一つのチャンネルのみサポートします。映像が1 ips より少なく設定されて録画した場合はオーディオデータが正常に保存できない恐れがあります。

参考: 保存中である録画映像の容量が2GBに達すると今までのデータを保存して作業を中止します。"ファイル容量制限" オプションを選択してからファイルの容量を指定すると指定された要領分保存してから作業を中止します。"ファイル分割" オプションを選択すると保存中の録画映像を2GBあるいは指定したファイルの容量毎に分割して保存します。

参考: "作業進行フレーム表示"オプションを選択すると現在保存中である映像をポップアップスクリーンとして表示します。

モーション検索

検索パンネルの (モーション検索)ボタンをクリックして遠隔地システムに録画されたモーションまたは物体を検索することができます。

参考: モーション検索は単一画面でのみ支援します。

- 録画期間: 検索しようとする映像の録画期間を設定します。
- 検索方法: 検索方法を選択します。
  - モーション検索: 連続された2つの録画映像を比較して検知領域で変化が発生した場合その映像を探し当てます(例: モージョンがあった場合)。
  - オブジェクト検索: 検索スクリーンに現在表示される映像と比較して検知領域で変化が発生し活性化時間間変化が持続される場合その映像を探し当てます(例: 物体がなくなった場合)。
- 敏感度: 変化感知の敏感度を設定します。値が大きければより敏感に感知します。

- 検索ブロック数: 変化感知最小ブロックを選択します(モーション検索のみ)。設定されたブロック数より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 参照映像対変化率: 変化感知の最小比率を選択します(オブジェクト検索のみ)。設定された比率より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 活性化時間: 変化感知時、変化が発生したと感知するために変化が持続される時間を設定します(オブジェクト検索のみ)。変化が感知されてから指定された時間間持続しないと変化がないことに見なします。
- (感知領域選択/解除): 検索スクリーンでブロックを選択または解除して感知領域を設定します。
- 検索/中止: 検索を開始または中止します。最後に録画された映像が検索スクリーンに表示されます。
- 次: 検索結果が100件になると検索を中止し、ボタンをクリックすると検索を続けます。
- 初期化: 検索条件を初期化します。

4.3 付加機能

保存

メインツールバーの (保存)ボタンをクリックして、現在画面の画像をJPEGまたはBMPファイルに保存することができます。保存時に"映像情報を含む"オプションを選択すると該当支店に対する文字情報を含めることができ、スクリーンの現在の分割状態そのままで保存します。

印刷

メインツールバーの (印刷)ボタンをクリックして、現在画面の画像をシステムに接続したプリンターで印刷することができます。印刷時に"画像情報を含む"オプションを選択して該当支店に対する文字情報を含めることができ、スクリーンの現在の分割状態そのままで印刷します。

スクリーンメニュー

監視及び検索スクリーンよりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。ポップアップメニューより機能を選択して当該映像の設定を変更することができます。

- カメラタイトル変更: スクリーン上に表示されるカメラ名を変更することができます。カメラ名を入力しなければ、遠隔地のシステムで設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。RASplusで変更したカメラ名は遠隔地システムの設定には影響を及ぼしません。
- オーディオオン: 監視画面ではRASplusと遠隔地のシステムの間のオーディオ送受信を行うことができます(双方向オーディオ機能が支援できる遠隔地システムに限り)。検索画面では録画映像の再生時、録音されたオーディオを一緒に再生することができます。詳細の内容は"4.1 リアルタイム監視– オーディオ送受信"及び"4.2 再生と検索 – オーディオ再生"の内容を御参照ください。
- 画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
  - 画面にあわせる: カメラスクリーンの領域に合わせて映像を出力します。
  - 映像レートにあわせる: 映像の原本レートでカメラスクリーンの領域に合わせて映像を出力します。
  - 1/2倍サイズ(x0.5) ~ 4倍サイズ(x4): 映像の原本の大きさを基準にして当該メニュから指定した大きさでカメラスクリーンに映像を出力します。例えば、"1倍サイズ(x1)"を選択すると原本映像のままの大きさで出力します。カメラスクリーンが当該大きさで映像を出力できるほどの領域が確保された場合だけ、活性化します。
- モーション感知エリア出力: 画面上で動きが感知された領域を赤ボックスで表示することができます(ネットワークビデオサーバーでのみ活性化する機能)。
- 黒い(雑音) 枠の除去: 映像のヘリに出力される黒い枠(雑音)を除去します(ネットワークビデオサーバ又はネットワークカメラの一部モデル限定)。

- マルチストリーム: リアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます。
- 録画カメラ設定: 緊急録画の場合、選択したカメラを録画するように指定します。詳しい内容は“3.3メニューのシステムメニュー”項目を参照してください。
- ディインタレーシング: インタレーシングモードにてインコーディングしてある映像の場合、動きのある部分へ発生する横線やノイズを無くし、映像の出力品質の向上することができます。
- ブロック現象改善: 拡大映像から見られるブロック現象を改善させた映像を出力することですべてのカメラの画面上の映像の出力品質を向上させることができます。
- カメラ接続解除: 画面上での接続中のカメラのみの接続を解除することができます。

参考: 仕様が十分でないPCからのディインタレーシングの御利用は映像の出力速度の低下の恐れがあります。

参考: 仕様が十分でないPCからのブロック現象改善の御利用は映像の出力速度の低下の恐れがあります。

4.4 緊急録画

メインツールバーの (緊急録画)ボタンをクリックすると、監視スクリーン上に表示されるカメラ画像に対し緊急録画がスタートし、ボタンをもう一度クリックすると緊急録画は中止します。一度に最大16チャンネルに対する録画が可能であり、録画対象のカメラの選択方法はシステム設定“録画モード設定”から変更することができます。録画画像は、システム設定で指定した保存フォルダーに保存されます。メインツールバーの (再生)ボタンをクリックすると、レコードプレーヤー(Record Player)プログラムが実行され、保存フォルダーの録画画像を再生します。レコードプレーヤーのGUI及び使い方はクリッププレーヤとほぼ同じであります。付録A. 保存画像の再生 – クリッププレーヤー”項目を参照してください。

現在指定されたフォルダー以外の保存フォルダーの録画画像を再生するには、まずレコードプレーヤープログラムを実行してからファイル保存位置を指定します。レコードプレーヤープログラムは、ウィンドウズの“スタート”メニュー → RASplus項目に移動して“RecordPlayer”を選択して実行します。

録画した映像はレコードプレーヤーの保存機能を利用してBMPファイル、あるいは実行ファイル(.exe)に保存することで可能です。

参考: 緊急録画機能を使用するには、システム 1 設定で“録画機能使用”を選択してその他録画情報を設定しなければなりません。

参考: レコードプレーヤー上に表示される日付と時刻は、RASplusで録画された時刻の情報です。

参考: 緊急録画が始まると当該カメラスクリーンに赤色の アイコンが表示されます。

参考: 音声録音は支援できません。

4.5 遠隔支店状態表示

状態表示パネルは、遠隔地システムの状態表示や遠隔設定、遠隔システムログ、遠隔イベントログ表示等の機能を提供します。遠隔支店とマップパネルでカメラまたは支店を選択してからマウスを利用して状態表示パネルにドラッグ&ドロップすると、該当支店についての状態情報が表示されます。また、遠隔支店リストでマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューの“状態表示パネル接続”を選択して、該当支店とアクセスすることもできます。

機能ボタン

接続解除: 状態表示パネルに接続されている遠隔支店とのアクセスを解除します。

参考: 状態表示パネルが遠隔支店と接続されている状態で他の遠隔支店とアクセスする場合、既存のアクセスを解除するかどうかを確認する画面が表示され、確認を選択すると既存のアクセスを解除して新しい遠隔支店への接続を試みます。

遠隔設定: 状態表示パネルに接続されている遠隔支店のシステム設定を変更します。

参考: 遠隔設定に関する詳しい内容は、該当システムのユーザーマニュアルを参照してください。

遠隔システムログ: 状態表示パネルに接続されている遠隔支店のシステムログを表示します。

遠隔イベントログ: 状態表示パネルに接続されている遠隔支店のイベントログを表示します。

参考: 遠隔システムログと遠隔イベントログに関する詳しい内容は、"3.3 メニュー – 遠隔メニュー"項目を参照してください。

参考: 遠隔設定と遠隔システムログ、遠隔イベントログの表示機能は、状態表示パネルに接続されていない状態でも"遠隔"メニューまたは遠隔支店リストで支店を選択してからマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューによってサポートできます。

緊急録画遠隔制御: 状態表示パネルに接続している遠隔支店の緊急録画を制御します。遠隔地のシステムが緊急録画中で無い場合は (On)の表示をし、ボタンを選択すると緊急録画が始まります。遠隔地のシステムが緊急録画中である場合は (Off)の表示をし、ボタンを選択すると緊急録画を中止します。

参考: 遠隔地DVRのシステムの仕様及びソフトバージョンにより緊急録画遠隔制御をサポートしないこともあります。

状態表示画面

状態表示画面には、状態表示パネルに現在接続されている遠隔支店のイベント、アラーム出力、システムチェック、録画時間と状態、システムバージョンなどの状態情報がリアルタイムで表示されます。

参考: 遠隔支店システムの仕様により、一部状態表示が支援できない場合があります。

イベント: イベント(モーション感知、アラーム入力作動、テロ感知、映像遮断、オーディオ感知、トリップゾーン、タンパーリング)を表示し、イベント発生時に設定された連動録画期間の間イベント発生表示が続きます。

イベント感知

イベントなし

使用しない

アラーム出力: アラーム出力状態を表示します。

アラーム出力　　アラーム出力なし　　使用しない

システムチェック: 遠隔地システムで使用するカメラ、アラーム、録画機能の状態を表示します。

正常　　異常　　使用しない

録画期間: 録画期間を表示します。

状態: 遠隔地システムの録画と再生、アーカイブ、クリップコピーの状態を表示します。

作動中　　作動しない

システムバージョン: 遠隔地システムのバージョン情報を表示します。

付録 A. 保存画像の再生

セルフプレーヤーで保存画像は、ファイル自体に再生プログラムが含まれているため、保存画像を再生するために別のソフトウェアをインストールする必要はありません。該当ファイルをダブルクリックすると、プレーヤープログラムがすぐに稼働します。

参考: プレーヤーのユーザーインターフェースは、遠隔地システムの機種によって異なることがあります(セルフプレーヤーで保存画像の再生時に限る)。

ミニバンクプレーヤー

参考: ミニバンクプレーヤープログラムを稼働させるためのPCの最低CPU仕様は800MHz Pentium IIIです。CPUの仕様が低い場合は、高画質と最高速度で録画されたミニバンクファイルの再生は多少遅くなります。

“映像表示部”は、ミニバンクファイルからの画像資料を画面上に表示する部分です。画面でマウス右ボタンをクリックすると画像を確認し、Ctrlキーを押したままマウス右ボタンをクリックすると画像が縮小します。マウスホイールを使って、画像を拡大したり縮小することもできます。Shiftキーを押したままマウス右ボタンをクリックすると、画面の解像度を転換することができます。拡大画面は、マウス左ボタンをクリックしたままドラッグして画像の位置を移動させることができます。

“終了”ボタンは、プログラムを完全に終了させるときに使用します。

“保存”ボタンは、映像表示部に表示された静止画像をハードディスクやフロッピーディスクにBMPファイルとして保存するときに使用します。

“印刷”ボタンは、映像表示部に表示される画像をプリンターで出力するときに使用します。

“バックアップファイル情報表示”部分には、ミニバンクファイルに関する基本的な情報が表示されます。‘位置’項目には、ミニバンクデータが録画された場所が表示されます。‘録画’項目には、ミニバンクファイルの録画期間が表示されます。‘暗号’項目には、ミニバンクバックアップファイルの修正の有無が表示されます。もし修正していない場合には‘Normal’に、修正された場合には‘Wrong’にチェックされます。もしユーザーが暗号チェック過程をキャンセルした場合には、修正の有無は表示されません。

“現在の映像情報表示”部分には、映像表示部に表示される現在の画像に関する情報が表示されます。‘カメラ名’項目には現在の画像を録画したカメラの名前が表示され、‘時間’項目には現在の映像が録画された時間の情報が表示されます。

“映像探索スライドバー”には、現在表示されている画像が全体ファイルの中でどの位置にある画像であるかが表示されます。また、スライドバーの任意の位置をマウスでクリックまたはドラッグすると、該当位置に保存された映像が表示されます。

“再生”関連ボタンは、‘再生’、‘逆再生’、‘高速再生’、‘高速逆再生’、‘一時停止’、‘最初の映像に移動’、‘最後の映像に移動’、‘逆コマ送り’、‘コマ送り’などのボタンで構成されています。

“明るさ調整スライドバー”をマウスでクリックまたはドラッグして、映像の明るさを調整することができます。スライドバーの両端にある矢印ボタンを利用して、明るさを微細調整することもできます。

“明るさ調整初期化ボタン”は、映像表示部に表示される画像の明るさを初期状態に戻します。

“映像情報表示ボタン”は、映像表示部の画面上にカメラの位置と日付/時刻などの現在の画像情報を合わせて表示するかどうかを選択するボタンです。

“音消去”ボタンをクリックすると、保存されたオーディオの音が消去されます。

画面が表示されないかおかしい場合は、キーボードのShiftキーを押した状態で右上にあるPlayerロゴをマウスでダブルクリックして描画モードを変更します。

クリッププレーヤー

参考: クリッププレーヤープログラムを稼動させるためのPCのCPUは、800MHz Pentium III以上が必要です(Intel Pentium Dual Core 2.2GHz お勧め)。CPUの性能が低い場合、高画質と最高速度で録画されたアーカイブ映像は、多少ゆっくり再生されます。プログラムを正常に実行させるためには9.0バージョン以上のDirectX設置が必要で16MB以上のビデオラムのVGAカードを使用しなければいけません。

参考: 録画映像を保存する場合、“パスワード保存”オプションを選択したら当該映像を再生するとクリッププレーヤーの実行の前にパスワードを要求します。

参考: 録画映像を保存するの際“セルフプレーヤー除外”オプションを選択すると保存されているファイルを再生するためにはRASplusプリグラム設置CDに提供されるセルフプレーヤープログラムを実行する必要があります。

参考: 使用するPCの画面の設定によって、映像がきちんと見えないことがあります。その場合、デスクトップ画面でマウスの右ボタンをクリックし、プロパティ → 設定 → 詳細 → トラブルシューティング選択してから、“ハードウェアアクセラレータ”を"最大"に設定してください。引続いてうまく見えない場合はスタート→ファイルを指定して 実行で“dxdiag”を入力して入力キーボタンを押してDirectX診断ツールでDirectXバージョンが9.0以上かを確認してください。ディスプレイのタブに移動して“DirectDrawアクセラレータ”が使用可能になっているかを確認してください。Microsoft® Windows® XPのOSで“DirectのDrawテスト”ボタンを押してテストして下さい。VGA カードのドライバーバージョンを確認して最新バージョンで無い場合は最新バージョンへとアップデートしてください。全ての事項を確認してからも映像がきちんと見えない場合にはビデオカードを変更してください。ATI CHIPSETを使用したビデオカードをお勧めます。

をクリックすると画像の一番最初に移動し、をクリックすると高速で逆に再生します。をクリックすると一画面ずつ後ろに再生します。をクリックすると一倍速で再生し、をクリックすると一画面ずつ再生します。をクリックすると高速再生し、をクリックすると画像の一番最後に移動します。

特定カメラの画像をダブルクリックすると、そのカメラの画像だけが表示され、をクリックするとディスプレイモードが4→8→9→16→20→25→1+32分割画面の順に変化します。

参考: 保存された映像のカメラ数によって20、25、1+32分割モードは支援できない場合があります。

現在の画面分割モードで以前又は次のカメラグループに保存された映像がある場合、又は をクリックするとそれぞれ以前又は次のカメラグループに移動します。

をクリックするとクリッププレーヤーのプロパティを設定することができます。

印刷
情報
画像処理
プレイスピードコントロール
ディスプレイモード
画面サイズ
画面レート
OSD 設定...
✓ オーディオオン
✓ ブロック現象改善
✓ テキスト表示

- 印刷: 現在の画像を印刷します。
- 情報: 現在の画像のチャンネル番号、カメラタイトル、録画時間、録画タイプ、ファイルサイズ、解像度等の情報が表示されます。
- 画像処理: 画像の明るさを調整したり、"ソフトに"または"シャープに"のようなイメージフィルターを適用することができます(単一画面 一時停止モードに限る)。
- 再生速度調節: "再生"及び、"FF/RW"(早送り/巻き戻し)速度を変更します。
- ディスプレイモード: ディスプレイモードを選択します。画面が表示されない場合、あるいは画像が正常でない場合は、ディスプレイモードを変更してみてください。
- 画面サイズ: クリッププレーヤーの 画面サイズを選択します。
- 画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
- OSD 設定...: スクリーンに表示されるOSD項目を設定できます。
- オーディオオン: 当該映像を保存しながらオーディオも一緒に録音している場合にチェックするとオーディオを出力します(単一画面再生時に限る)。
- ブロック現象改善: 拡大映像のブロック現象が改善された映像を出力します。使用するPCのCPUの低仕様のために再生に差支えがない場合はブロック現象改善のオプションを解除すると多少は再生速度を改善することができます。
- テキスト表示: 映像にテキスト入力情報がある場合テキスト入力情報を表示します。単一画面モードではテキスト入力情報が映像と一緒に表示されます。分割画面モードではカメラ画面でマウス右クリックしてテキストイン出力メニューを選択します。

をクリックしてクリッププレーやーの映像の保存ができます。

現在映像の保存
現在映像の保存 (1倍サイズ)
クリップコピー保存
動画保存
クリップコピーログ

- 現在映像の保存: 現在の画面をイメージファイルで保存します。
- 現在映像の保存(1倍サイズ): 現在映像のフレームをイメージファイル(1倍サイズ)で保存します(単一画面メードに限り)。
- クリップコピーの保存: 映像の特定区間を実行ファイルで保存します。
- 映像の保存: 映像の特定区間をAVIファイルで保存します。
- クリップコピーのログ: クリップコピーのログ情報をテキストファイルで保存します。クリッププレーヤーの映像をクリップコピーする時、ログ上の使用者情報は"Internal-Copy"と表記されます。

アイコンをクリックしてイメージを拡大または実際のイメージを表示します (単一画面メードに限り)。拡大した画面をマウスでクリックしてからカーソルを動かし、拡大した画面の位置を変更することができます。

をクリックして画面を全体画面にして見ることができます。

をクリックして特定時間帯の映像を見ることができます。保存映像の日付および時間を設定してその映像に直ぐ移動することができます。

画像が修正されなかったことを確認したら、プレーヤー右下に アイコンがを表示し、画像が 改竄された場合は アイコンを出力しながら再生を中止します。

参考: 全体画面モードを使用するためには、使用するPCのVGAカードとモニターが画面の領域800x600ピクセル解像度をサポートしなければなりません。PCが800x600ピクセルをサポートしない場合には、全体画面機能が正常に動作しないことがあります。その場合は、PCキーボードのESCボタンを押して一般画面モードに戻ってください。

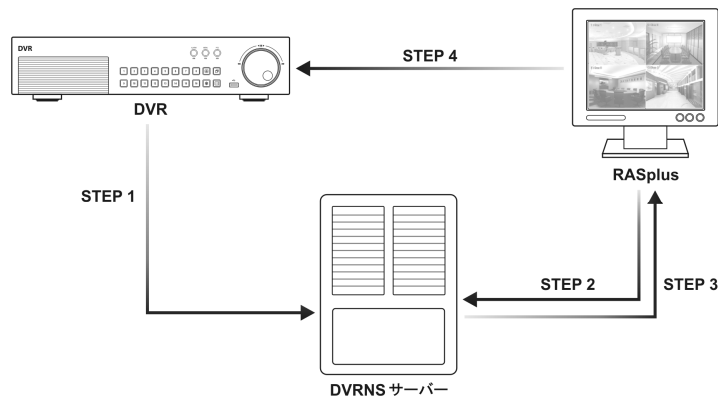
右下のスクロールバーを動かして、任意の時刻の画像に直接移動することができます。

参考: 遠隔地システムの仕様及びソフトのバージョンによって一部オプションをサポートできないこともあります。

付録 B. DVR ネームサービス (DVRNS)

概要

PSTNとPSDN、ISDNを除いたLAN/WAN環境では、固定/グローバルIPを使用しなければならないため、そのための回線費用の負担は重くなっています。そのため、回線費用の負担が相対的に軽いADSLやVDSLなどとDHCPを活用して動的/グローバルIPを使用できるDVRネームサービスをDVRでサポートしています。

システム構成

STEP 1 (DVR → DVRNSサーバー): DVRのDVRNS設定で、DVRの名前とIPを入力します。入力したDVR名とIPアドレスはすぐにDVRNSサーバーに登録されます。

参考: DVRNS設定に関連した詳しい内容は、該当DVRのユーザーマニュアルを参照してください。

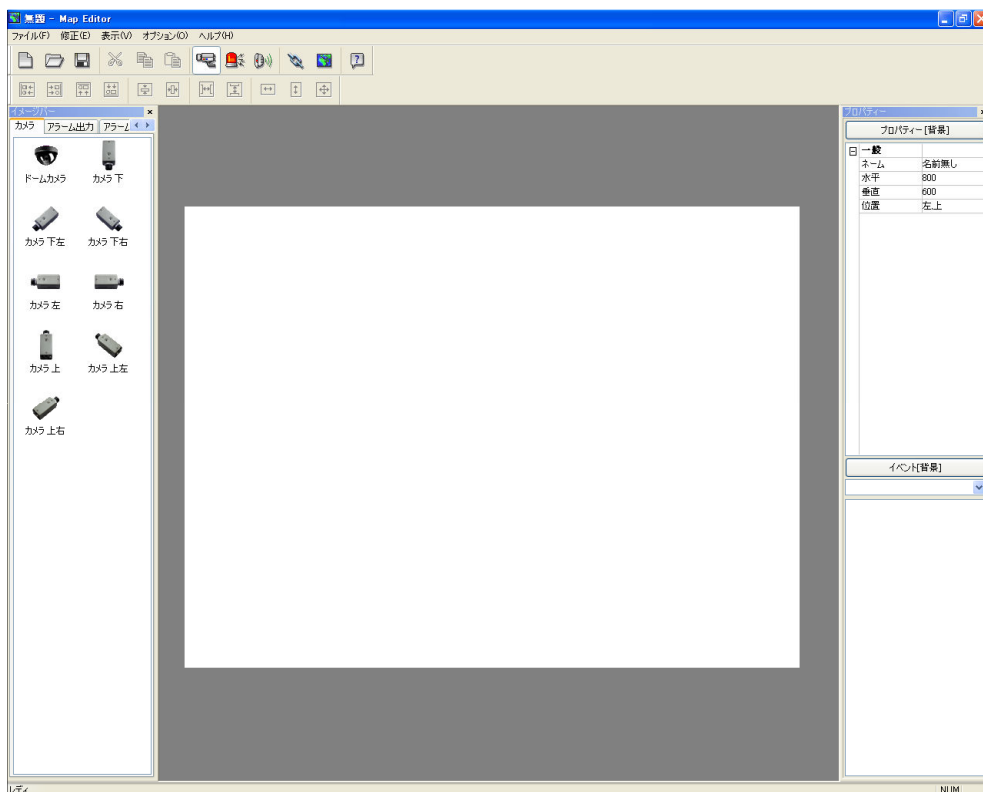
STEP 2 (RASplus → DVRNSサーバー): アクセスしようとする遠隔地DVRの登録名を利用してIPアドレスを要請します。

STEP 3 (DVRNSサーバー → RASplus): 該当DVRのIPアドレスをRASplusに返信します。該当するDVR名がない場合は、エラーコードを返信します。

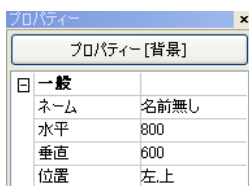
STEP 4 (RASplus → DVR): 照会したIPアドレスを利用して、該当DVRにアクセスします。

参考: 一度照会したDVRであったとしても、IPアドレスや名前などはいつでも変更されることがあるので、アクセスするたびにSTEP 1 ~ STEP 4のプロセスを行わなければなりません。

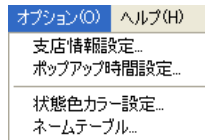
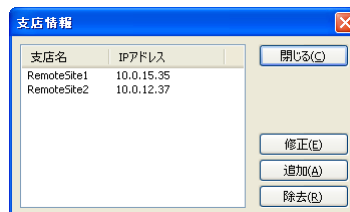
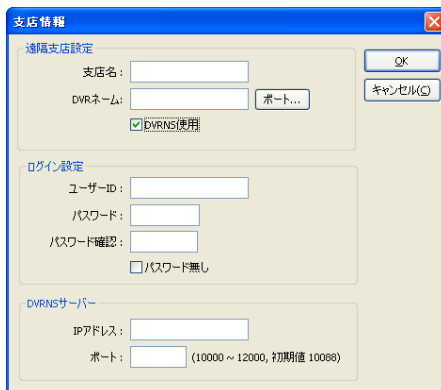
付録 C. Map Editor

Map Editorはドラッグ&ドロップまたはリンクなどの機能によって、監視する遠隔支店のマップを簡単にそして効果的に作成、編集することのできるプログラムです。ウィンドウズの"スタート"メニュー→"RASplus"→"MapEditor"を選択してプログラムを実行します。

背景画像の設定

まず、ビートマップまたはJPEGファイルのイメージを準備してから、上段のツールバーの (背景イメージ挿入)ボタンをクリックして、マップの背景画像を選択します。背景となる画像はあらかじめBMPまたはJPEGで作成しておいてください。

"プロパティー[背景]"タブで背景画像の情報を設定します。

- ネーム: 背景画像の名前を入力します。
- 水平/垂直: 各項目をクリックしてから数字を修正して背景画像のサイズを調整します。
- イメージ整列: 背景画像の位置を調整します。マップのサイズを背景画像のサイズに合わせるには、"イメージに合わせる"を選択します。

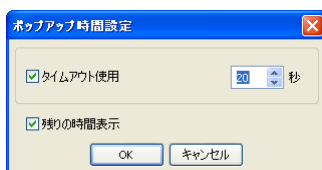
オプションメニュー

上段の"オプション"メニューで、装置の接続された遠隔地のシステムの情報、装置状態表示、遠隔地のシステム名表示に関連した設定を行うことができます。

支店情報設定: "オプション"メニューで"支店情報設定..."を選択すると、支店情報 設定画面が表示されます。装置の接続された遠隔地のシステムの情報を設定することができます。

"追加"ボタンをクリックすると、"支店情報"設定画面が表示されます。

- 遠隔サイト情報: 設置された遠隔地のシステムの名前とIPアドレスを入力してから、"ポート..."ボタンをクリックします。遠隔地のシステムでLAN設定時に設定した値と同じネットワークIPポート番号(8000 ~ 12000)を入力します。DVRネームサービス機能を使用するには、"DVRNS使用"欄をチェックします。

参考: DVRネームサービス機能を使用する場合は、遠隔地のシステムのIPアドレスの代わりにDVRNSサーバーに登録した遠隔地のシステム名を入力することができ、ネットワークIPとポート番号を入力する必要はありません。

- ログイン情報: 装置の接続された遠隔地のシステムのユーザーIDとパスワードを入力します。
- DVRNSサーバー情報: "DVRNS使用"欄をチェックした場合、遠隔地のシステムでDVRNS設定時に設定した値と同じDVRNSサーバーIPアドレスとポート番号を入力します。

"OK"ボタンをクリックして設定を保存します。

ポップアップ時間設定: "オプション"メニューから"ポップアップ時間設定を選択すると、"ポップアップ時間設定"メニューが表示されます。イベント監視の場合、当該映像のポップアップを持続する時間を設定することができます。

"タイムアウト使用"にチェックしてから、持続時間を設定します(1秒~5分)。"残りの時間表示"にチェックするとポップアップする残りの時間をポップアップスクリーンに出力します。

参考: ポップアップ時間設定はマップパネル上のすべてのマップに適用されます。

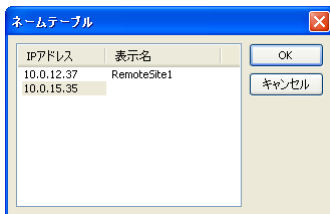
状態表示カラーの設定: “オプション”メニューで“状態カラー設定…”を選択すると、“状態カラー”画面が表示されます。マップパネルで、装置の状態とイベント発生の有無を固有のカラーで表示するように設定することができます。

“カラー使用”欄をチェックしてから、設定する状態ボックスの横にチェック表示します。選択した各状態ボックスをクリックして、該当状態とイベント感知時に表示する色を選択します。“OK”ボタンをクリックして設定を保存します。

- アクセス失敗：遠隔地のシステムにアクセスできないか、サポートしていない装置と接続している。
- イベント･オフ　：イベント設定を行っていない。
- 異常動作　　：正しく動作しない。
- 映像遮断/映像信号なし/モーション感知/テロ感知/オーディオ感知/トリップ ゾーン/タンパーリング: そのイベント発生。
- アラーム入力　：アラーム入力イベント発生。
- アラーム出力　：アラーム出力イベント発生。

参考: イベント状態表示の場合、遠隔地のシステムで設定したイベント感知設定によってイベント発生状態を表示します。また、“異常作動”状態常時の場合は、遠隔地のシステムで設定したシステムチェック設定によって状態を表示します。

参考: 同時に2つ以上の状態またはイベントを感知した場合、該当する各イベントの色が混合したカラーが表示されます。

ネームテーブル: “オプション”メニューで“ネームテーブル設定”を選択すると、“ネームテーブル画面が表示されます。マップパネルで、遠隔地のシステムのIPアドレスの代わりに表示する名前を設定することができます。

該当IPアドレスの“表示名”項目を選択してから、ポップアップスクリーンに表示する遠隔地のシステムの名前を入力します。

装置設定

上段のツールバーで 、 または ボタンをクリックすると、左の“イメージバー”の下に“カメラ”、“アラーム出力”、“アラーム入力”タブが表示されます。設定しようとする装置のアイコンを選択してから、背景画面上の任意の位置にドラッグ&ドロップします。

“プロパティー[カメラ/アラーム出力/アラーム入力]”タブで、選択した装置の情報を設定します。

一般プロパティー

- ネーム: 装置の名前を入力します。
- 記述: 装置に関する説明を入力します。
- 支店情報: 装置が設置された支店をリストから選択します。選択時、“装置のプロパティー”項目(IPアドレス、ユーザー、パスワード、ポート)が自動的に設定されます。
- イメージ: 項目をダブルクリックして装置の画像を選択します。
- 比率: 装置画像のサイズを調整します。
- X座標/Y座標: 各項目をクリックしてから、数字を利用して装置画像の位置を調整します。
- 水平/垂直: 各項目をクリックしてから、数字を利用して装置画像のサイズを調整します。
- ポップアップカメラ: 選択した装備がアラームイン装備の場合、カメラ名を入力してカメラを該当センサーと連動することができます。カメラ名は“プロパティー[カメラ]”のタブで入力した“ネーム”と同じではなければなりません。ポップアップカメラを設定するとアラームインイベント感知時、連動した該当のカメラ映像をポップアップスクリーンに見せます。

装置プロパティー

- IPアドレス/ユーザー/パスワード/ポート: “オプション”メニューの“支店情報設定…”で設定した遠隔地のシステムのIPアドレス、ユーザーID、パスワード、ポート番号が自動的に設定され、手動で入力することもできます。
- デバイス番号: 各装置のデバイス番号を設定します(1 ~ 32)。選択した装備がカメラの場合選択した装備がカメラの場合、“カメラ番号”を設定します。
- DVRNS使用: DVRネームサービス機能を使用するには、“はい”を選択します。“DVRNS”項目が表示されたら、DVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメインネーム)とポート番号そしてDVRNSサーバーに登録した遠隔地のシステムのIPアドレス(ネーム)を入力します。

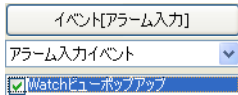
参考: “オプション”メニューの“支店情報設定…”でDVRNSサーバーのIPアドレスとポート番号を設定した場合、“DVRNS”項目は自動的に設定されます。

参考: “デバイス番号”設定時に、遠隔地遠隔地のシステムでサポートしていない範囲のチャンネル番号は選択しないでください。そうでないと、該当装置はマップ上で認識されず、“アクセス不可”状態で表示されます。例えば、16チャンネルDVRのカメラデバイス番号を設定する場合は、1 ~ 16番の間の番号を選択しなければなりません。

参考: “DVRNS”機能は、DVRNS(DVRネームサービス)機能を提供する遠隔地のシステムに対してのみ使用することができます。

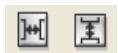
“イベント[カメラ/アラーム出力/アラーム入力]”タブで、選択した装置に対するオプションを設定します。

“イベント[カメラ]”タブ: イベントを選択してから、“Watchビューポップアップ”欄をチェックします。イベントを選択すると、マップパネルでイベントが感知される場合、該当画像がポップアップします。“マウスクリック”を選択すると、イベント感知に関係なくマップパネルのカメラアイコンをマウスでクリックすると、該当カメラの画像がポップアップします。

“イベント[アラーム出力]”タブ: “スイッチON/OFF”欄をチェックすると、マップパネルのアラーム出力アイコンをマウスでクリックして、遠隔でアラーム出力をコントロールすることができます。

"イベント[アラーム入力]"タブ: "アラーム入力イベント"または"マウスクリック"を選択してから、"Watchビューポップアップ"欄をチェックします。"アラーム入力イベント"を選択すると、アラーム入力イベントが感知されない場合はセンサーと連動したカメラの画像がポップアップします。"マウスクリック"を選択すると、イベント感知に関係なくマップパネルのセンターアイコンをマウスでクリックすると、該当センサーと連動したカメラの監視画像がポップアップします。

参考: イベント監視時、カメラポップアップ機能を使用しようとすると"プロパティー[アラーム入力]"のタブで該当センサーのプロパティーの設定時、連動させるカメラを設定しなければなりません。詳しい内容は"プロパティーの一般のカメラポップアップ"項目をご参考下さい。

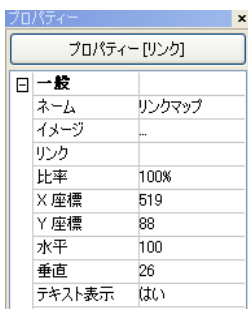
リンク設定

上段のツールバーの (リンク)ボタンをクリックしてから、画面上の任意の位置でもう一度クリックすると リンクマップ ボックスが表示されます。マウスやキーボードまたはアイコンを利用して、リンクボックスのサイズと位置を調整します。

- 間隔調節: 3つ以上のボックスを選択した場合は、選択したボックス間の間隔を全て一定に統一します。

- サイズ調節: 2つ以上のボックスを選択した場合、選択したボックスのサイズを全て一定に統一します。キーボードのShiftキーを押したままキーボードの矢印キーをクリックすると、選択したボックスのサイズを一度に調節することができます。

- 位置調節: 2つ以上のボックスを選択した場合、選択したボックスを全て特定方向または中央に整列します。キーボードのCtrlキーを押したままでキーボードの矢印キーをクリックすると、選択したボックスの位置を一度に調節することができます。

- 切り取り、コピー、貼り付け: 選択したハイパーリンクボックスを切り取ったりコピーしたり、貼り付けます。

"プロパティー[リンク]"タブより選択したリンクボックスの設定値を設定します。

- ネーム: リンクボックスの名前を入力します。
- イメージ: 項目をダブルクリックしてからリンクボックスの中に入れるイメージを選択します。
- リンク: 項目をダブルクリックしてからリンクボックスをクリックするとリンクされるマップを選択します。
- 比率: リンクボックスの中に入れるイメージのサイズを調節します。
- X座標/Y座標: 各項目をダブルクリックしてから数字を用いてリンクボックスの位置を調整します。
- 水平/垂直: 各項目をダブルクリックしてから数字を用いてリンクボックスのサイズを設定します。
- テキスト表示: "はい"を選択すると選択したイメージ上にリンクボックスの名前を表示します。

上段のツールバーで (保存)ボタンをクリックしてマップを保存します。保存されたマップを利用して遠隔支店を監視できます。マップを利用した監視に関する詳しい説明は"3.2パネルーマップパネル"項目を参照してください。

付録 D. モバイルデバイスを使用する監視

参考: 遠隔地のシステム仕様及びバージョンによって下のプログラムが支援されない場合があります。

PDA用RASモバイル

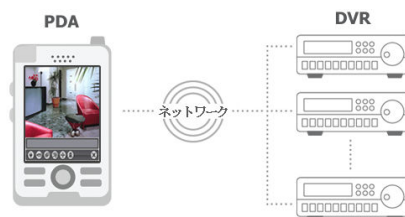
システム要求事項

PDA用RASモバイルは無線ランでWindows Mobileフラットフォームが搭載されたPDAで遠隔サイトが検知できるプログラムです。遠隔システムのカメラの入力映像を好きな時間に監視できるだけではなく、映像の調節及びPTZ制御が可能です。

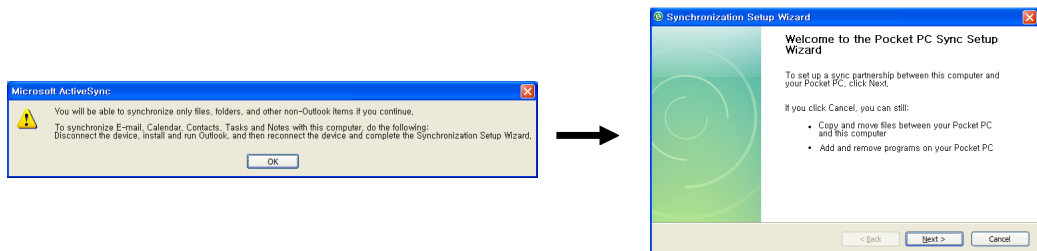
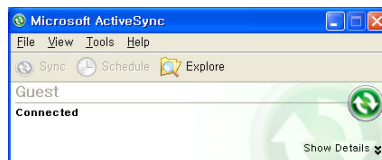
参考: PDA用RASモバイルが該当 DVRより支援される場合、RASplus設置CDにPDA用RASモバイル設置ファイルが提供されます。

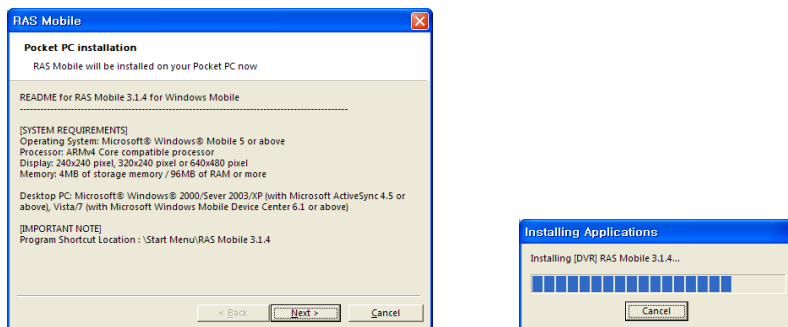
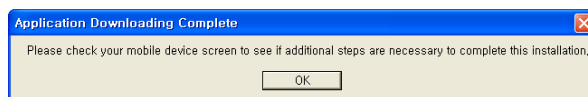
システム要求事項

- OS: Microsoft® Windows® Mibile 5.x/6.x
- Processor: ARMv4 Core 互換プロセッサー
- Display: 240x240 pixel、320x240 pixel または 640x480 pixel
- メモリ: ストレージメモリ 4MB / RAM 96MB 以上
- 無線ラン環境: 802.11 標準支援
- タッチ･パネル必須
- Desktop PC: Microsoft Windows 2000 / Server 2003 / XP (Microsoft ActiveSync 4.5 以上), Vista/7 (Microsoft Windows Mobile Device Center 6.1 以上)

システム構成図

プログラム設置

1. RASモバイルソフトをPDAにインストールするためにまずPCにMicrosoft ActiveSyncまたはMicrosoft Windows Mobile Device Centerソフトをインストールします。ソフトのインストールファイルはそのソフトのウェブサイトからダウンロードできます(http://www.microsoft.com/windowsmobile/ko-kr/downloads/default.mspx)。

2. PCにPDAを接続します。以下のようなメッセージが出力されると“OK”(確認)ボタンをクリックします。続いて以下のようなインストール窓が現れると“Cancel”(キャンセル)ボタンをクリックします。PCにMicrosoft Active SyncまたはMicrosoft Windows Mobile Device Centerソフトが既にインストールされている場合、この過程は省力される場合があります。

3. Microsoft ActiveSynceまたはMicrosoft Windows Mobile Device Centerソフトが実行されて次のようなPDAの接続状態が表示されます。PCにPDAが接続されていれば"Connected"(接続)で表示されます。

4. PCでRASモバイルソフトのインストールファイル(RAS_Mobile_Setup.exe)を実行します。

5. 下に示す設置画面が表示されたら"Next"ボタンをクリックします。プログラム設置中のステータス画面が表示されます。

6. 次のようなインストール窓が現れると"OK"ボタンをクリックします。これからPDAにRASモバイルソフトのインストールができます。

7. PDA画面を確認します。PDAにRASモバイルソフトをインストールするかどうか確認する画面が現れます。画面の下段にある"インストール"ボタンをクリックしてRASモバイルソフトをPDAにインストールします(デフォルトインストールフォルダ: My Device\Program Files\RAS Mobile 3.1.4)。

8. PDAでデスクトップ画面にあるRASモバイルアイコン をダブルクリックするか、インストール フォルダのRAS_Mobile_Setup.exeを実行させ、プログラムを実行します。

参考: 設置されたプログラムを削除するにはPDAでスタート→設定→システム→制御版→プログラム追加/削除→[DVR] RAS Mobile 3.1.4を選択し、削除します。

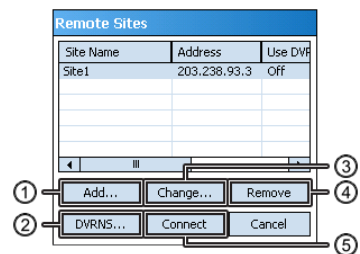
構成及び運営

RASモバイルプログラムは下に示すユーザーインタフェースを持っており、各ニューボタンの機能は下記の通りです。

① **映像表示部**: 遠隔地のカメラのリアルタイム画像を表示します。
② **状態情報窓**: プログラムのバージョンと遠隔支店の接続状態を表示します。
③ **ニューボタン**: RASモバイルの各種機能を遂行します。各メニューボタンの機能は以下の通りです。

接続　カメラ選択　画面モード転換　画質調節
PTZ制御　アラーム出力コントロール　保存

接続: 遠隔支店の管理及び、DVRネームサービスの設定、該当遠隔支店設定の接続などを行います。

① 新規遠隔登録　② DVRNS設定　③ 新規遠隔変更
④ 新規遠隔削除　⑤ 新規遠隔接続

- Add…: 新規遠隔支店を登録します。

– Site Name (支店名): RASモバイルソフトで使用する名前を入力します(最大32桁)。
– IP Address (IPアドレス): DVRのIPアドレスを入力します。DVRがDVRNS機能を使用する場合は、“Use DVRNS”オプションを有効にし、DVRのIPアドレスの代わりに、DVRNSサーバーに登録されたDVR名前を入力します。入力した名はDVRのDVRNSの設定で登録したDVR名と等しくしければなりません。
– Watch Port (監視ポート): DVRの監視ポートのナンバーを入力します。RASモバイルで設定した“Watch Port”の設定値はDVRのLAN設定で設定した値と等しくしければなりません。
– User ID (使用者ID)/Password(暗号): DVRログイン時使われる使用者のID及び、暗号を入力します。

- Change… (遠隔支店の変更): 遠隔支店名リストで 支店を選択してから “Change” ボタンをクリックして該当支店を該当支店の情報を変更します。
- Remove (遠隔支店の削除): 遠隔支店名リストで支店を選択してから “Remove” ボタンをクリックして該当支店を削除しま。
- DVRNS… (DVRNSの設定): DVRNS機能を使用する場合は、“DVRNS”ボタンをクリックしてDVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメイン名)とポート番号を設定します。このときのIPアドレス(またはドメイン名)とポート設定値は、DVRのDVRNS設定で設定した値と同じでなければなりません。
- Connect (遠隔支店の接続): 遠隔支店名リストでアクセスしようとする支店を選択してから“Connect”ボタンを押してください。接続に成功すると該当遠隔地の1番カメラの映像が見え、接続に失敗するとエラーメッセージが状態情報窓に現れます。

参考: Microsoft ActiveSyncまたはMicrosoft Windows Mobile Device Centerを通じて遠隔地システムに接続する場合RASモバイルのプログラムが正しく動作できない恐れがあります。

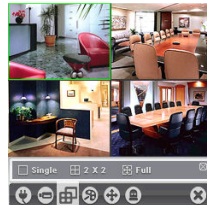
カメラ選択: ボタンをクリックしてカメラ選択窓で見ようとするカメラボタンを選択します。選択されたカメラの映像とカメラ名、日付/時刻情報を 表示され、該当カメラの映像信号がない場合は“No Video”が出力します。

参考: カメラ選択ボタンは該当DVRがサポートする最大カメラの数位、活性化になって現れます。

画面モード転換: ボタンをクリックして任意の画面の分割方式(1分割、4分割、フルスクリーン)を選択します。

参考: 2x2分割画面では現在選択されたカメラの映像が緑色のい枠で表示され。

参考: 全体画面上で画面をクリックすると一般画面モードに転換されます。全体画面モードではPDA装備の方向ボタンを使ってPTZの制御ができます。

<1分割画面>

<4 分割画面 >

< 全体画面 >

画質調節: 明度/対比/彩度/色相コントロールを使って監視画像のカラーを調整することができます。右側の (原本)を選択すると各画像の調整値の基本値に設定されます。

① 明度　② 対比　③ 彩度　④ 色相　⑤ 基本値

PTZ制御: PTZコントロールを使って該当PTZカメラの上下左右移動、拡大/縮小焦点、しぼり及びプリセットをコントロールします。

① ズームイン/ズームアウト　② アイリス開け/閉じ
③ フォーカス遠く/近く　④ プリセット設定/表示
⑤ 移動ボタン

アラーム出力コントロール: 遠隔サイトでアラームアウト装置をコントロールすることができます。

終了: RASモバイルプログラムを終了します。

Android用RASモバイル

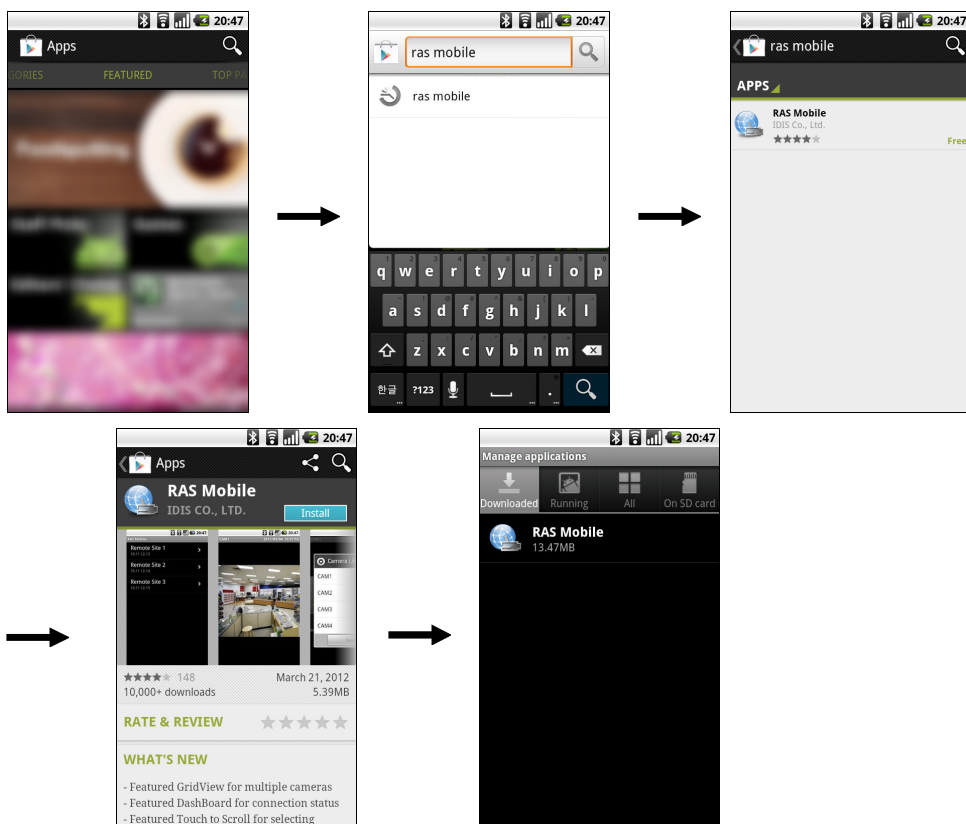
Android用RASモバイルは、ネットワークの接続を通じてAndroidのプラットホーム基板の携帯用デバイスで遠隔地のDVRに接続して映像が監視できるソフトであります。

システム要求事項

- OS: Google Android 2.0 ~ 4.0.3
- Processor: ARMv5TE、ARMv6またARMv7-A互換プロセッサー、1GHz以上
- Display: 240x240 pixel ~ 1280x800 pixel
- ストレージ: 25MB以上
- ネットワーク: Androidの携帯用デバイスで提供するWi-Fiまたはモバイルネットワーク(3Gまたは4G)

システム要求事項

システム構成図

1. デバイスでAndroid"Playストア"(Google Play)アプリケーションを実行します。
2. "Playストア"(Google Play)のアプリケーションの検索窓で"RAS Mobile"を入力します。
3. RASモバイルソフトをインストールしてからソフトを実行します。

参考: RASモバイルソフトを除去するには"環境設定"→"アプリケーション"→"アプリケーションの管理"画面に移動します。"RAS Mobile"を押して"除去"ボタンを押すと除去されます。

注意: このプログラムは多量のデータを使います。データ料金はユーザーの負担になりますので、データ料金に関する詳しい内容ご加入の通信事業者にお問い合わせください。

操作

1. RASモバイルソフトを実行します。デバイスのメニューボタンを押すと以下のような初期メニューが現れます。

- 遠隔地追加: DVRを登録します。
- 環境 設定: RASモバイル ソフトの設定を修正および情報を確認します。

2. "遠隔地 追加"ボタンを 押し、DVRの情報を入力して、DVRを登録します。

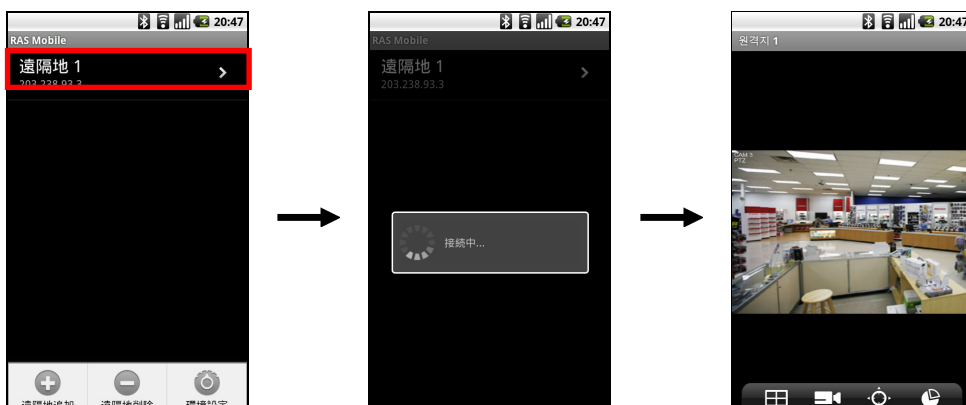
- 説明: RASモバイルソフトで使用するDVRの名前を入力します。
- DVRNS使用: DVRがDVRNS機能を使用する場合は、"DVRNS使用"を選択します。DVRNSサーバー情報は初期メニューで"環境設定"ボタンを押して設定することができます。
- アドレス、ポート: DVRのIPアドレスおよび監視ポート番号を入力します。DVRがDVRNS機能を使用する場合は、"DVRNS 使用"の項目が選択されているか確認してからDVRのIPアドレスの代わりに、DVRNSサーバーに登録されたDVR名前を入力します。入力した名はDVRのDVRNSの設定で登録したDVR名と等しくしければなりません。
- ユーザーID、パスワード: DVRログイン時使われるユーザIDおよびパスワードを入力します。

3. 登録されたDVRの情報を修正するためにはDVRリストでそのDVRを凡そ3秒間押します。メニューが現れると"編集"を選択してから情報を修正します。

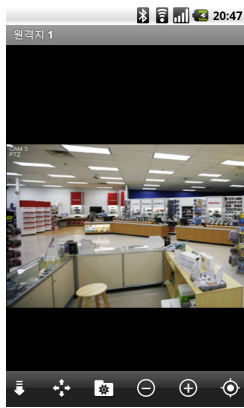
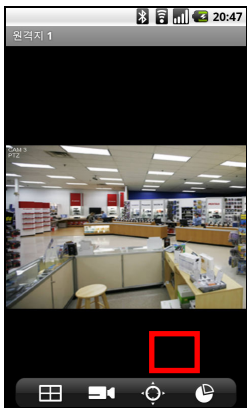
4. 初期メニューで"環境 設定"ボタンを押してRASモバイルソフトの設定を確認してから必要な場合、設定を修正します。

- DVRNS: DVRがDVRNS機能を使用する場合は、"DVRNS"機能の情報を入力します。DVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメイン名)およびポート番号を入力します。このときのIPアドレス(またはドメイン名)およびポート番号は、DVRのDVRNS設定で設定した値と同じでなければなりません。
- 表示: 監視映像に標記されるテキスト情報(カメラ名等)の言語を設定します。テキスト情報を正しく標記するためには該当テキストの言語を設定しなければなりません。RASモバイルソフトの文字エンコーディングが 該当言語を支援しない場合は"Western"を設定してください。

モニタリング

1. 初期メニューのDVRリストから監視しようとするDVRを選択します。そのDVRの映像が画面に表示されます。画面の上段でご希望のレイアウトを選択してスクリーンのレイアウトを変更することができます。

- スクリーン: カメラの画面を押したらそのカメラの映像を1分割レイアウトで表示します。この時、デバイスのキャンセルボタンを押すと、以前のレイアウトに戻ります。現在のスクリーンレイアウトで以前又は次のカメラグループに映像がある場合、スクリーンをドラッグすると前又は次のカメラグループに移動します。1分割レイアウトでカメラ画面を押すと、該当のカメラのOSDを隠すことができ、またカメラ画面をもう一回押すとOSDが表示されます。横モードではスクリーンを長く押すとメニューが表示されます。
- (レイアウト): スクリーンレイアウトを変更します。ボタンを押すとレイアウトのリストが表示され変更したいレイアウトを選択することができます。
- (カメラ): カメラチャンネルリストを表示します。チャンネルを押すと該当カメラの映像は表示されます。横モードでは本機能は対応しません。
- (PTZモード): PTZモードでPTZカメラを制御することができます(単画面レイアウトのみで支援)。DVRよりPTZカメラを設定しない場合には該当機能が支援されません。該当の機能が支援される場合、カメラ画面にPTZアイコンが表示されます。
- (データ転送量): データ転送量を表示します。横モードでは本機能は対応しません。

PTZ制御

(PTZモード)ボタンを押すとPTZモードよりPTZカメラを制御することができます。

- (エスケープ): PTZモードより出ます。
- (移動): PTZカメラの方向を移動させます。
- (プリセット表示): DVRより設定したプリセットリストを表示します。プリセットを押すとPTZカメラを該当の位置へ移動させます。
- / (縮小/拡大): 映像を縮小又は拡大します。
- / (近距離/遠距離フォーカス): 近距離または遠距離のフォーカスを調整します。
- / (しぼり開/閉):しぼりを調整します。

参考: 横モードでは一部PTZ機能が支援されないことがあります。

参考: PTZモードでスクリーンをドラッグすると反対方向にPTZカメラの方向が動きます。

2. 他のDVRの映像を監視するためにはデバイスのキャンセルボタンを押します。現在の接続が解除され、初期メニューに戻ります。

BlackBerry用RASモバイル

BlackBerry用RASモバイルは、ネットワークの接続を通じてBlackBerry OSがインストールされた携帯用デバイスで遠隔地のDVRに接続して映像が監視できるソフトであります。

システム要求事項

- OS: BlackBerry v4.6以上
- Processor: ARMv5teまたはARMv7 互換プロセッサー
- Display: 300x240 pixel以上
- ストレージ: ストレージメモリ300KB以上

• ネットワーク: BlackBerryの携帯用デバイスで提供するWi-Fiまたはモバイルネットワーク(3G)

システム要求事項

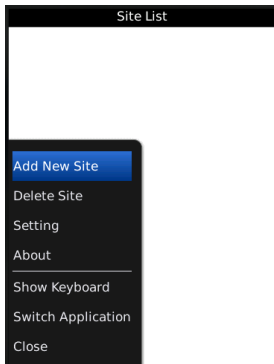
システム構成図

1. デバイスでBlackBerry"App World"アプリケーションを実行します。
2. "App World"のアプリケーションの検索窓で"RAS Mobile"を入力します。
3. RASモバイルソフトをインストールしてからソフトを実行します。

参考: RASモバイルソフトを除去するには"Downloads"のフォルダに移動します。"RAS Mobile"を選択してからデバイスのメニューボタンを押したら表示されるメニューで"Delete"を選択します。

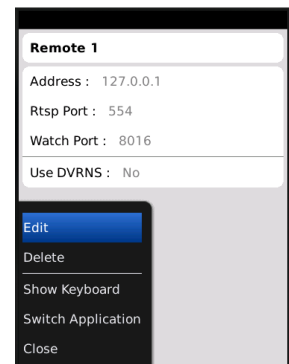
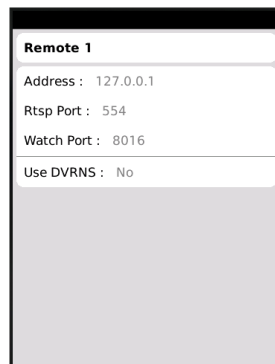
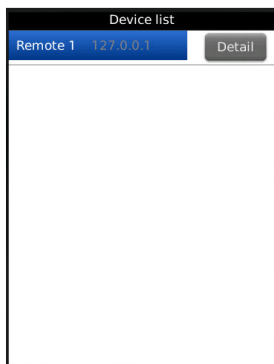
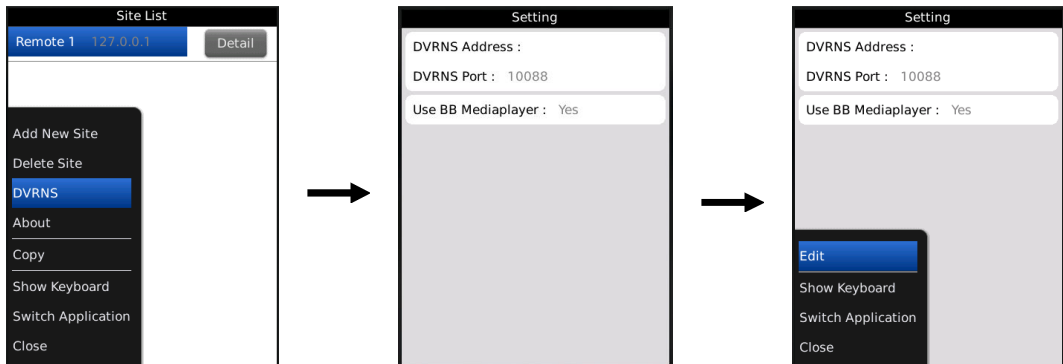
注意: このプログラムは多量のデータを使います。データ料金はユーザーの負担になりますので、データ料金に関する詳しい内容ご加入の通信事業者にお問い合わせください。

操作

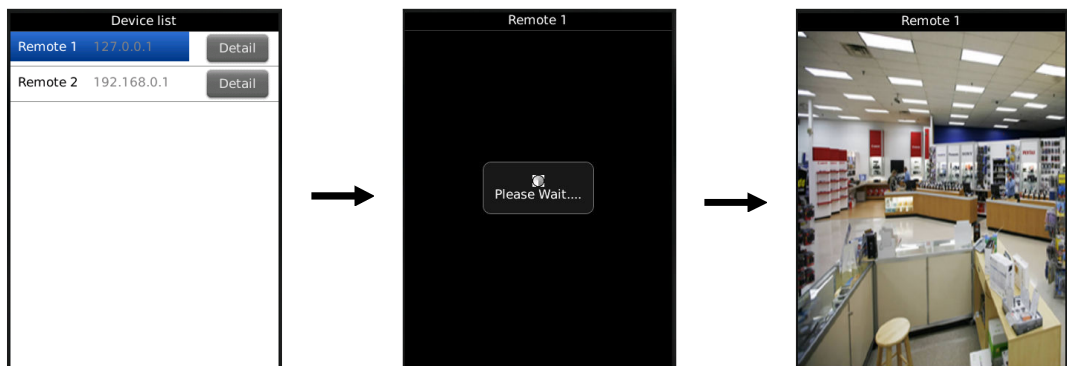
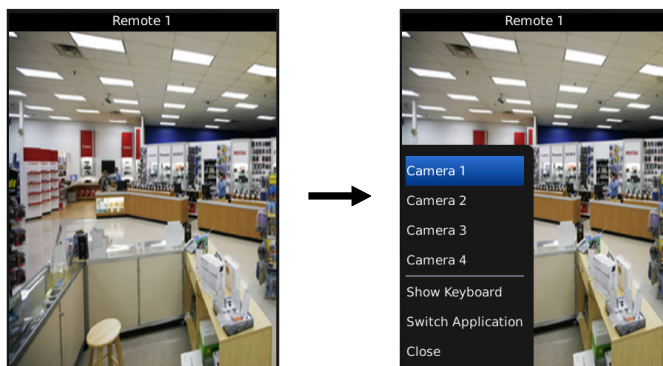
1. RASモバイルソフトを実行します。デバイスのメニューボタンを押すと以下のような初期メニューが現れます。

- Add New Site (登録), Delete Site (削除): DVRを登録するか削除します。
- Setting (設定),: DVRがDVRNS機能を使用する場合は、“DVRNS”サーバーの情報を入力します。またblackberryの内蔵のメディアプレーヤーを使用するかを設定することができます。
- About (情報): RASモバイル ソフトに関する情報を確認します。

2. “Add New Site”ボタンを 押し、DVRの情報を入力して、DVRを登録します。

- Name (名前): RASモバイルソフトで使用するDVRの名前を入力します。
- Address (アドレス): DVRのIPアドレスを入力します。DVRがDVRNS機能を使用する場合は、“Use DVRNS”の項目が選択されているか確認してからDVRのIPアドレスの代わりに、DVRNSサーバーに登録されたDVR名前を入力します。入力した名はDVRのDVRNSの設定で登録したDVR名と等しくしければなりません。
- Rtsp Port (Rtspポート)、Watch Port(監視ポート): DVRのポート番号を入力します。DVRにRTSP機能が設定されているか確認してください。
- Use DVRNS (DVRNS使用): DVRがDVRNS機能を使用する場合は、“DVRNS使用”を選択します。DVRNSサーバー情報は初期メニューで“環境設定”ボタンを押して設定することができます。
- User ID (ユーザーID)、Password (パスワード): DVRログイン時使われるユーザIDおよびパスワードを入力します。

3. 登録されたDVRの情報を修正するためにはDVRリストで“Detail”ボタンを押してからデバイスのメニューボタンを押します。“Edit”(編集)を選択してから情報を修正します。

4. DVRがDVRNS機能を使用する場、初期メニューで“Setting”を選択してから、“DVRNS”機能の情報を入力します。

- DVRNS Address、DVRNS Port: DVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメイン名)およびポート番号を入力します。このときのIPアドレス(またはドメイン名)およびポート番号は、DVRのDVRNS設定で設定した値と同じでなければなりません。
- Use BB Mediaplayer: blackberry内蔵のメディアプレーヤーを用いて映像を表示します。この場合、ディスプレーの速度が速くなるが、映像が表示されない場合があります。この機能を使用して映像が表示されない場合はこの機能を解除してください。

モニタリング

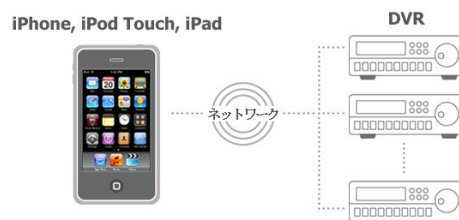
1. 初期メニューのDVRリストから監視しようとするDVRを選択します。そのDVRの映像が画面に表示されます。

2. デバイスのメニューボタンを押すとカメラリストが表示されます。希望のカメラを選択すると選択したカメラの映像が画面に表示されます。

3. 他のDVRの映像を監視するためにはデバイスのキャンセルボタンを押します。現在の接続が解除され、初期メニューに戻ります。

参考: DVRがルータ(又はNAT)を通じてネットワークに接続している場合、ルータ(又はNAT)より手動でポートフォワーディング設定するかまたはDVRとルータ(又はNAT)よりUPnP機能を設定する必要があります。UPnP機能設定の詳しい内容はDVRの取扱説明書をご参考して下さい。

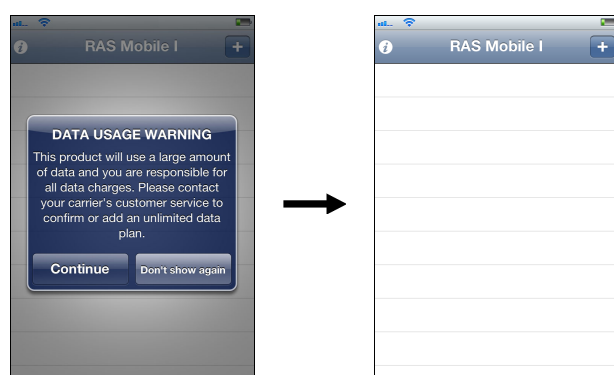
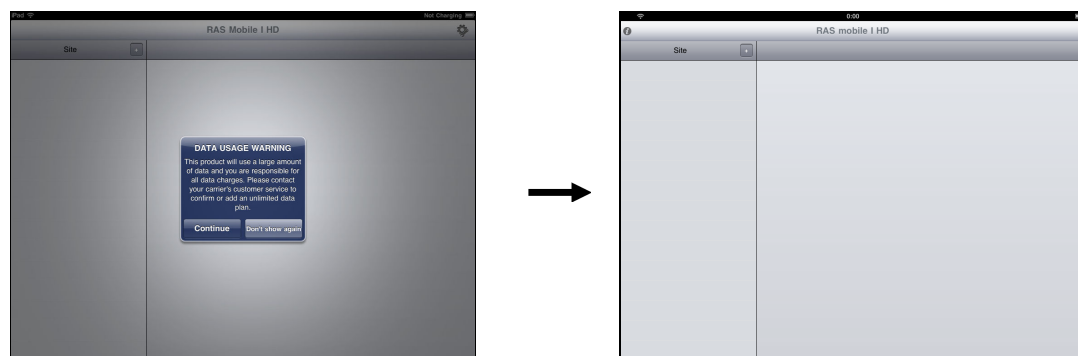
参考: DVRに接続してから映像が出力されない場合、DVRのRTSP設定より“モバイル使用”項目が選択されているかを確認して下さい。

iPod Touch、iPhoneやiPad用RASモバイル I

RASモバイルIでは、アップル社のモバイルデバイス(iOS 4.0以上の iPod Touch、iPhoneやiPad)を使用することにより、いつでも、そしてほぼどこからでも、ネットワークコネクションを通じて、遠隔支店にアクセスしたり、ライブビデオをモニターすることができます。

システム要求事項

システム構成図

4. デバイスで“App Store”( )アプリケーションを実行します。
5. “App Store”のアプリケーションの検索窓で“RAS Mobile I”を入力します。
6. RASモバイルソフトをインストールしてからソフトを実行します。

iPod Touchまたは iPhone

iPad

注意: このプログラムは多量のデータを使います。データ料金はユーザーの負担になりますので、データ料金に関する詳しい内容ご加入の通信事業者にお問い合わせください。

操作

1. + ボタンを押し、DVRの情報を入力して、DVRを登録します。

iPod Touchまたは iPhone

iPad

- Name (名前): RASモバイルIソフトで使用するDVRの名前を入力します。
- Connection Info (遠隔支店の接続情報): DVRのIPアドレスおよびポート番号を入力します。DVRがDVRNS機能を使用する場合は、“DVRNS”オプションを有効にし、DVRのIPアドレスの代わりに、DVRNSサーバーに登録されたDVR名前を入力します。入力した名はDVRのDVRNSの設定で登録したDVR名と等しくしければなりません。
- Login (ログイン): DVRログイン時使われるユーザIDおよびパスワードを入力します。

2. もし登録されているDVRがDVRNS機能を使用する場合は、モバイルデバイスの“設定” → “RAS Mobile I”ボタンを押します。DVRNSサーバーのIPアドレス（またはドメイン名）およびポート番号を入力します。このときのIPアドレス(またはドメイン名)およびポート番号は、DVRのDVRNS設定で設定した値と同じでなければなりません。

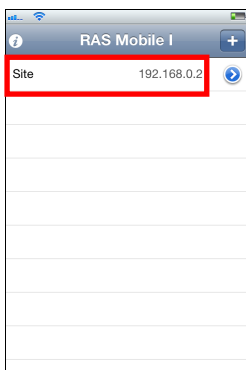
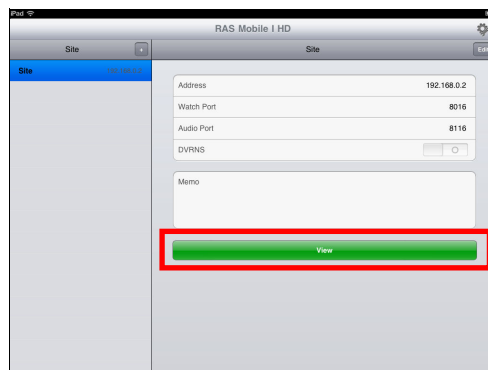
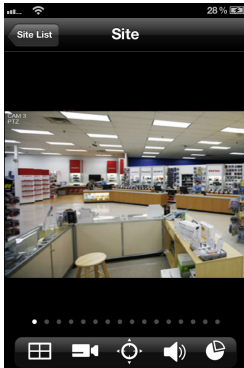
3. 登録されているDVRを削除すること、またリストの中からDVRを選択することで、DVRの情報を編集することができます。

DVRの情報修正(iPod TouchあるいはiPhone)

DVR削除(iPod TouchあるいはiPhone)

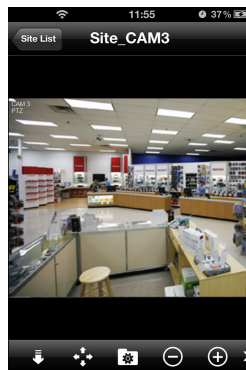
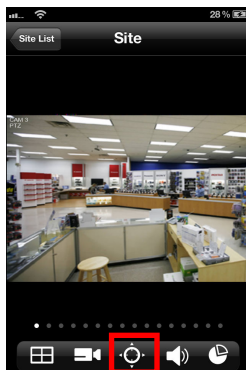
DVRの情報修正あるいは削除(iPad)

モニタリング

リストでDVRを押して(iPod TouchあるいはiPhone)または“View”(表示)ボタンを押して(iPad)、モニタリングするためのDVRに接続します。画面にDVRのビデオが表示されます。

iPod Touch, iPhone　　　　　　　　iPad

- Site List: DVR接続を解除してからSiteListに戻ります。
- スクリーン: カメラの画面を押したらそのカメラの映像を1分割レイアウトで表示します。現在のスクリーンレイアウトで以前又は次のカメラグループに映像がある場合、スクリーンをドラッグすると前又は次のカメラグループに移動します。横モードではスクリーンを長く押すとメニューが表示されます。
- (レイアウト): スクリーンレイアウトを変更します。画面を押して変更することもできます(順次: 1→4→9または16分割)。モバイルデバイスの種類によって支援されるレイアウトが違います(iPod Touch: 1分割、iPhone: 1、4分割、iPad: 1、4、9または16分割)。
- (カメラ):カメラチャンネルリストを表示します(単画面レイアウトのみで支援)。チャンネルを押すと該当カメラの映像は表示されます。
- (PTZモード): PTZモードでPTZカメラを制御することができます(単画面レイアウトのみで支援)。DVRよりPTZカメラを設定しない場合には該当機能が支援されません。該当の機能が支援される場合、カメラ画面にPTZアイコンが表示されます。
- (オーディオ): DVRと両方向オーディオを支援します。
- (データ転送量): データ転送量を表示します。

参考: スペースの問題で一部ボタンが見えない場合、メニュー画面をドラッグすると次のボタンが表示されます。

PTZ制御

(PTZモード)ボタンを押すとPTZモードよりPTZカメラを制御することができます。

- (エスケープ): PTZモードより出ます。
- (移動): PTZカメラの方向を移動させます。
- (プリセット表示): DVRより設定したプリセットリストを表示します。プリセットを押すとPTZカメラを該当の位置へ移動させます。
- / (縮小/拡大): 映像を縮小又は拡大します。
- / (近距離/遠距離フォーカス): 近距離または遠距離のフォーカスを調整します。
- / (しぼり開/閉):しぼりを調整します。

参考: スペースの問題で一部ボタンが見えない場合、メニュー画面をドラッグすると次のボタンが表示されます。

参考: モバイルデバイスの種類によって横モードでは横モードでは一部PTZ機能が支援されないことがあります。

参考: PTZモードでスクリーンをドラッグすると反対方向にPTZカメラの方向が動きます。ドラッグした方向に動きたい場合は、次のモバイル設定の"設定"→"RAS Mobile I"を選択して"PTZ Direction – Reverse"を"On"に設定してください。